

75 ハデイルがムーサーに言った。「私はあなたに言ったでしょう。ムーサーよ、あなたは私がすることに耐えられない。」

76 ムーサー(平安あれ)は言った。「もし私がこの後また何かを尋ねたときは、私のもとを立ち去ってください。私はすでに二回あなたに背いてしまいましたので、それ以上言い逃れはできませんから。」

77 そうして二人は村人のもとへ歩いて行き、食べ物をお願いしたが、村人は食べ物を与えるのを拒み、二人をもてなすのを拒んだ。二人が村に今にも崩れ落ちそうな壁があるのを見つけると、ハデイルはそれをまっすぐに直した。ムーサー(平安あれ)はそこでハデイルに言った。「お望みとあらば、修理代を請求しましょうか。もてなしを拒まれては必要になりますから。」

78 ハデイルはムーサーに言った。「私が修理代を取らないのに異を唱えましたね。これでもうお別れです。あなたがこれまでに見てきた、堪えきれなかった私の行いについてお伝えしましょう。」

79 「私が沈めたのをあなたが咎めた船についてですが、あれは海で働きながらも船賃を払えないような困窮者のためにあったのです。ところがすぐ近くで壊れた船以外は船という船を強奪する王がいたので、船を奪わないように故障させたのです。」

80 一方、私が殺したのをあなたが咎めた少年についてですが、彼の両親は信仰者でした。ところがあの少年はアッラーの(時を超えた)知では不信仰者だったのです。だから彼の両親が彼への溺愛や必要から、彼が成人して不信仰に感化されてしまうのではないかと危惧したのです。」

81 むしろアッラーが彼の代わりにより敬虔で親孝行かつ清純、より両親にとって思いやり深い子を与えてくださるのを望んだわけです。」

82 一方、私が修理したのをあなたが咎めた壁についてですが、あれは私たちが通りがかった町にいた、両親を亡くした二人の子供のためにあったのです。あの壁の中には二人にとっての財産が埋め込まれており、二人の両親は敬虔な人たちだったので、あなたの主は、ムーサーよ、二人が成人してからそこに埋めてある財産を取り出して役立てるのを望まれたのです。もし壁が崩れ落ちていたら、二人の財産は失われていたかもしれません。ですからこの対応はその二人にとってのあなたの主のお慈悲だったわけです。私が行ったことは私が考え抜いたことでした。これがあなたの堪えきれなかったことの解説です。」  
こうしてハデイルの物語を語られた後、共に係わりのある二つの角を持つ者(ズルカルナイン)の物語を言及される。実は二人とも弱者を守ろうと努めたのである。そして仰せられた。

83 使徒よ、多神教徒とユダヤ教徒は二つの角を持つ者の知らせを試そうと尋ねるだろう。言いなさい。「教訓と訓戒を得られるよう、その知らせの一部をお聞かせしましょう。」

### 本諸節の功德:

- 何かの判断するときは、落ち着いて焦らないこと。
- 事はその見かけで判断され、財産や生命等のこの世の規定はそれ(見かけ)次第とされる。
- より大きな悪事はより小さな悪事で防がれ、より大きな利益はより小さな利益の損失で補填される。
- 友は簡単に友を見放すのではなく、苦言を呈し、何度か大目に見てやるべきである。
- 至高のアッラーへの礼節から、善良なことはかれに帰すものとして言及し、悪はかれに帰すものとして言及しない。
- 敬虔な僕は、アッラーが本人と子孫を守ってください。

قَالَ أَلَمْ أَقُلْ لَكَ إِنَّكَ لَنْ تَسْتَطِيعَ مَعِيَ صَبْرًا ۗ قَالَ إِن سَأَلْتُكَ عَنْ شَيْءٍ بَعْدَهَا فَلَا تُصَحِّبْنِي ۖ قَدْ بَلَغْتَ مِن لَدُنِّي عُذْرًا ۖ فَانطَلَقَا حَتَّىٰ إِذَا آتَيْتَا أَهْلَ قَرْيَةٍ اسْتَطَعَمَا أَهْلَهَا فَأَبْوَا ۖ أَن يُضَيِّقُوهُمَا فَوَجَدَا فِيهَا جِدَارًا يُرِيدُ أَن يَنْقَضَ فَأَقَامَهُ ۗ قَالَ لَوْ شِئْتَ لَتَّخَذْتَ عَلَيْهِ أَجْرًا ۗ قَالَ هَذَا فِرَاقُ بَيْنِي وَبَيْنِكَ ۗ سَأُنَبِّئُكَ بِتَأْوِيلِ مَا لَمْ تَسْتَطِعْ عَلَيْهِ صَبْرًا ۗ أَمَّا السَّفِينَةُ فَكَانَتْ لِمَسْكِينٍ يَعْمَلُونَ فِي الْبَحْرِ فَأَرَدْتُ أَنْ أَعِيبَهَا وَكَانَ وَرَاءَ هُمْ مَلِكٌ يَأْخُذُ كُلَّ سَفِينَةٍ غَصْبًا ۗ وَأَمَّا الْعُلَمَاءُ فَكَانَ أَبُوهُم مُّؤْمِنِينَ وَفَخْشِبْنَا أَنْ يُرْهِقَهُمَا طُغْيَانًا وَكُفْرًا ۗ فَأَرَدْنَا أَنْ يُبْدِلَهُمَا رَبُّهُمَا خَيْرًا مِّنْهُ زَكَاةً وَأَقْرَبَ رُحْمًا ۗ وَأَمَّا الْجِدَارُ فَكَانَ لِغُلَامَيْنِ يَتِيمَيْنِ فِي الْمَدِينَةِ وَكَانَ تَحْتَهُ وَكُنُزُهُمَا وَكَانَ أَبُوهُمَا صَالِحًا فَأَرَادَ رَبُّكَ أَنْ يَبْلُغَا أَشُدَّهُمَا وَيَسْتَخْرِجَا كُنُزَهُمَا رَحْمَةً مِن رَّبِّكَ ۗ وَمَا فَعَلْتُهُ ۗ وَعَنْ أَمْرِي ذَٰلِكَ تَأْوِيلُ مَا لَمْ تَسْتَطِعْ عَلَيْهِ صَبْرًا ۗ وَيَسْأَلُونَكَ عَنِ ذِي الْقُرْبَيْنِ ۖ قُلْ سَأَتْلُوا عَلَيْكُمْ مِنهُ ذِكْرًا ۗ

إِنَّا مَكَّنَّا لَهُ فِي الْأَرْضِ وَءَاتَيْنَاهُ مِنْ كُلِّ شَيْءٍ سَبَبًا ﴿٨٥﴾ فَاتَّبَعَ سَبَبًا  
 حَتَّىٰ إِذَا بَلَغَ مَغْرِبَ الشَّمْسِ وَجَدَهَا تَغْرُبُ فِي عَيْنٍ حَمِئَةٍ  
 وَوَجَدَ عِنْدَهَا قَوْمًا قُلْنَا يَا أَيُّهَا الْقَرْنَيْنِ إِنَّمَا أَنْتَ تُعَذِّبُ وَإِنَّمَا أَنْتَ تُتَّخَذُ  
 فِيهِمْ حُسْنًا ﴿٨٦﴾ قَالَ أَتَأْمَنُ ظَلَمَ فَسَوْفَ نُعَذِّبُهُ ثُمَّ يُرَدُّ إِلَىٰ رَبِّهِ  
 فَيُعَذِّبُهُ وَعَدَّ أَبًا تُكْرًا ﴿٨٧﴾ وَأَتَمَّنَّ مِنْ أَمْنٍ وَعَمِلَ صَالِحًا فَلَهُ جَزَاءٌ  
 الْحَسَنَىٰ وَسَنُقُولُ لَهُ مِنْ أَمْرٍ يُؤَسِّرُ ﴿٨٨﴾ ثُمَّ اتَّبَعَ سَبَبًا ﴿٨٩﴾ حَتَّىٰ  
 إِذَا بَلَغَ مَطْلِعَ الشَّمْسِ وَجَدَهَا تَطَّلِعُ عَلَىٰ قَوْمٍ لَمْ يَجْعَلْ لَهُمْ مِنْ  
 دُونِهَا سِتْرًا ﴿٩٠﴾ كَذَلِكَ وَقَدْ أَحَطْنَا بِمَا لَدَيْهِ خُبْرًا ﴿٩١﴾ ثُمَّ  
 اتَّبَعَ سَبَبًا ﴿٩٢﴾ حَتَّىٰ إِذَا بَلَغَ بَيْنَ السَّدَّيْنِ وَجَدَ مِنْ دُونِهِمَا قَوْمًا  
 لَا يَكَادُونَ يَفْقَهُونَ قَوْلًا ﴿٩٣﴾ قَالُوا يَا أَيُّهَا الْقَرْنَيْنِ إِنَّا يَا جُوجُ  
 وَمَأْجُوجُ مُفْسِدُونَ فِي الْأَرْضِ فَهَلْ نَجْعَلُ لَكَ خَرْجًا عَلَىٰ أَنْ  
 تَجْعَلَ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ سَدًّا ﴿٩٤﴾ قَالَ مَا مَكَّنِّي فِيهِ رَبِّي خَيْرٌ فَأَعِينُونِي  
 بِقُوَّةٍ أَجْعَلْ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُمْ رَدْمًا ﴿٩٥﴾ آتُونِي زُبُرَ الْحَدِيدِ حَتَّىٰ إِذَا سَاوَىٰ  
 بَيْنَ الصَّدَفَيْنِ قَالَ انْفُخُوا حَتَّىٰ إِذَا جَعَلَهُ نَارًا قَالَ آتُونِي أُفْعَ عَلَيْهِ  
 قَطْرًا ﴿٩٦﴾ فَمَا اسْتَطَعُوا أَنْ يَظْهَرُوهُ وَمَا اسْتَطَعُوا لَهُ نَقْبًا ﴿٩٧﴾

外の者の言葉を理解しない民に遭遇した。

〔94〕彼らは言った。「二つの角を持つ者よ、ヤアजूージュとマアजूージュ(ゴグとマゴグというアードムの子孫のうち二つの大きな共同体のこと)は地上を殺戮で荒らし回っています。あなたに代価を払ったら、私たちと彼らの間に壁を作ってくれますか?」

〔95〕二つの角を持つ者は言った。「私の主が私に与えてくれた王権と権能は、あなたたちがくれる代価よりもよいものである。人夫と道具で助けてくれれば、あなたたちの間に壁を作ってみせよう。

〔96〕鉄の塊を持ってきてくれ。」そこで彼らはそれを持ってきて、二つの山の間で建設を始めた。そして山と山の間が平らになるまで建てられると、人夫たちに言った。「この塊に火をつけてくれ。」そしてその鉄の塊が赤くなると、「銅を注ぎ込むから持ってきてくれ。」と言った。

〔97〕こうしてヤアजूージュとマアजूージュは上からはその壁が高く攻め込めず、下からも頑丈なつくりで穴を開けて攻め入ることができなかった。

### 本諸節の功德:

●二つの角を持つ者(ズルカルナイン)は、この世を支配し、人々に君臨した信仰者の王の一人であった。アッラーは彼に広大な王権を与え、英知と威厳、そして役立つ知識を授けられた。

●王たる者あるいは統治者たる者の責務として、民の住処を守り、財を補填することがある。

●敬虔さと誠実さの民は、アッラーの尊顔を求めて(アッラーのために)仕事の達成にこだわろうとする。

〔84〕われらは地上で彼に自由を利かせ、望むものは何でも手に入れられるような手段を与えた。

〔85〕そうして彼はわれらが与えた、自分の望むものへと至る手段を得て西へ向かった。

〔86〕視線の届く限り日が沈む最果ての地までたどり着くと、黒い土を湛えた温泉に太陽が沈んでいくかのような光景を見て、日が沈むところに不信仰の民を見つけた。われらは彼に選択できるよと言った。「二つの角を持つ者よ、彼らを殺すかどうかして痛めつけるか、よい接し方をするかせよ。」

〔87〕二つの角を持つ者は言った。「アッラーとは別の者を並べ立て、私たちがアッラーを崇めるよういざなった後でなおそれにこだわる者は、この世では死刑とし、それから最後の日には主の御許に帰せられておぞましい懲罰を受けるのだ。

〔88〕一方、彼らのうちアッラーを信じてよい行いをする者には天国がある。その信仰と善行への主からの報奨であり、私たちからは温和で柔かな声掛けがあるだろう。」

〔89〕それから最初の道とは別の道を日の出の方角へと行き、

〔90〕視線の届く限り太陽が昇るところまでたどり着くと、家を木陰で日差しから守ろうとしない民のもとに日が差しているのを見た。

〔91〕二つの角の持つ者についても同様である。彼の持つ力や権力をわれらの知は掌握している。

〔92〕それから最初の二つの道とは別の、東と西の間に背を向けながら道を行き、

〔93〕二つの山の間にある洞窟にたどり着くと、自分たち以下

قَالَ هَذَا رَحْمَةٌ مِّن رَّبِّي فَإِذَا جَاءَ وَعْدُ رَبِّي جَعَلَهُ دَكَّاءَ وَكَانَ وَعْدُ رَبِّي حَقًّا ﴿٩٨﴾ وَتَرَكْنَا بَعْضَهُمْ يَوْمَئِذٍ يَمُوجٌ فِي بَعْضٍ وَنُفِخَ فِي الصُّورِ فَجَمَعْنَاهُمْ جَمْعًا ﴿٩٩﴾ وَعَرَضْنَا جَهَنَّمَ يَوْمَئِذٍ لِّلْكَافِرِينَ عَرْضًا ﴿١٠٠﴾ الَّذِينَ كَانَتْ أَعْيُنُهُمْ فِي غَطَاةٍ عَن ذِكْرِي وَكَانُوا لَا يَسْتَطِيعُونَ سَمْعًا ﴿١٠١﴾ أَفَحَسِبَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَن يَتَّخِذُوا عِبَادِي مِن دُونِي أَوْلِيَاءَ إِنَّا أَنعَدْنَا جَهَنَّمَ لِّلْكَافِرِينَ نَزْلًا ﴿١٠٢﴾ قُلْ هَلْ نُنَبِّئُكُم بِالْأَخْسَرِينَ أَعْمَالًا ﴿١٠٣﴾ الَّذِينَ ضَلَّ سَعِيَّهُمْ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَهُمْ يَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ يُحْسِنُونَ صُنْعًا ﴿١٠٤﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ كَفَرُوا بِعَايَتِ رَبِّهِمْ وَلِقَائِهِمْ فَبُخِطُوا أَعْمَالُهُمْ فَلَا نُقِيمُ لَهُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ وَزَنًا ﴿١٠٥﴾ ذَلِكَ جَزَاءُ الَّذِينَ كَفَرُوا بِمَا كَفَرُوا وَاتَّخَذُوا آيَاتِي وَرُسُلِي هُزُوًا ﴿١٠٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ كَانَتْ لَهُمْ جَنَّاتُ الْفِرْدَوْسِ نُزْلًا ﴿١٠٧﴾ خَالِدِينَ فِيهَا لَا يَبْغُونَ عَنْهَا حِوَلًا ﴿١٠٨﴾ قُلْ لَوْ كَانُ الْبَحْرُ مِدَادًا لِّكَلِمَاتِ رَبِّي لَنَفِدَ الْبَحْرُ قَبْلَ أَن تَفْدَلَ كَلِمَاتُ رَبِّي وَلَوْ جَنَّا بِمِثْلِهِ مَدَدًا ﴿١٠٩﴾ قُلْ إِنَّمَا أَنَا بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ يُوحَىٰ إِلَيَّ أَنَّمَا إِلَهُكُمُ إِلَهُ وَاحِدٌ فَمَن كَانَ يَرْجُوا لِقَاءَ رَبِّهِ فَلْيَعْمَلْ عَمَلًا صَالِحًا وَلَا يُشْرِكْ بِعِبَادَةِ رَبِّهِ أَحَدًا ﴿١١٠﴾

⑨⑧ 二つの角を持つ者(ズルカルナイン)は言った。「この障壁は私の主のお慈悲であり、ヤアजूージュとマアजूージュの間と地上の荒廃を分かち遮るものです。アッラーが定められた清算の日に彼らが現れる時が来れば、それ(障壁)は平らなものとなるでしょう。障壁が平らなものとなって、ヤアजूージュとマアजूージュが出現するのは、違いのない確かなことなのです。」

⑨⑨ われらは最後の時に被造物のうちある者たちをどよめかせ、互に入り混じらせる。そして角笛が吹き鳴らされると、われらは被造物全てを清算と報奨のために一つ所に集めるのである。

⑩⑩ そして不信仰者たちにわれらはジャハンナム(火獄)を明らかに見せた。疑いの余地がないように、まざまざと見せつけるのである。

⑩⑪ われらがそれ(火獄)を見せつけるのは、生前アッラーを思い起こすことに盲目であった不信仰者たちであり、覆いで目を閉ざされ、受け入れの聴き方でアッラーの印(クルアーンの章句)を聴けなかった者たちである。

⑩⑫ アッラーを信じない者たちは、わが僕たちである天使や使徒、悪魔をわれ以外に崇めようとするのか。われらは不信仰者たちに火獄を住処として用意した。

⑩⑬ 言いなさい、使徒よ。「人々よ、自分の行いを誰よりも台無しにしてしまう人についてお伝えしましょうか。」

⑩⑭ 「清算の日に生前追い求めていたものが失われたのを見る人たちのことです。生前彼らは自分たちが追い求めているものは素晴らしく、最善の努力を尽くしていると思ひ込んでいて、その行いがきっとためになると思ひ込んでいましたが、現実とはそうではなかったのです。」

⑩⑮ 「そうした人たちこそ、主が唯一なる御方であることを示す様々な印を否定して、かれといつかお会いすることになるのを否定した人たちです。そうしてその不信仰のせいで行いは無効なものとなり、清算の日に至ってはアッラーの御許で彼らの価値は皆無となってしまいます。」

⑩⑯ 彼らのために用意された報いは火獄である。それは彼らがアッラーを信じないからであり、わが啓示や使徒の数々を嘲ったからである。

こうして不信仰者への報いを述べられた後、信仰者への報奨を述べるべく仰せられた。

⑩⑰ 本来にアッラーを信じてよい行いをする者たちには、歓待を受けられる楽園の最上階があるだろう。

⑩⑱ 彼らはそこに永遠に留まる。別のところへの移動を求めることはない。それ以上の報奨はないからである。

⑩⑲ 言いなさい、使徒よ。「本当に私の主の御言葉は数多くあり、たとえもし海がそれを書き記す墨だったとしても、完全無欠なかれの御言葉が尽きる前に海水はなくなってしまうでしょう。たとえ別の海を持ってきても同じことです。」

⑩⑳ 言いなさい、使徒よ。「私はあなたたちと同じ人間に過ぎません。ただ私にはあなたたちが本当に崇めるべき存在は他に並ぶ者なき御方アッラーだということが啓示されるだけです。ですから主にお目見えするのを恐れる人は、その教えになかった行いをし、純真にそれを主に捧げ、主にお仕えするうえで他のものを誰一人並べ立てないように。」

**本諸節の功德:**

- 2回目の角笛が鳴らされることで、清算の日の広場に人間とジンが復活させられ、集められる。
- 清算の日に最大の損失をこうむる人は、アッラー以外のものを崇めながら自分たちは正しいことをしていると思ひ込み、生前の努力が台無しになってしまう人である。
- 至高のアッラーの御言葉や知識、英知や奥義は、たとえいくつもの海や大洋などが墨となって書き記すことができたとしても、覆い尽くすことはできない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

كَمْ هَمَّصَ ① ذِكْرَ رَحْمَتِ رَبِّكَ عَبْدَهُ وَزَكْرِيَّا ② إِذْ  
 نَادَى رَبَّهُ وَنِدَاءَ خَفِيًّا ③ قَالَ رَبِّ إِنِّي وَهَنَ الْعَظْمُ مِنِّي  
 وَأَشْتَعَلُ الرِّئَاسُ شَيْبًا وَلَمْ أَكُنْ بِدُعَائِكَ رَبِّ شَقِيًّا  
 ④ وَإِنِّي خِفْتُ الْمَوَالِيَ مِنْ وَرَائِي وَكَانَتِ امْرَأَتِي  
 عَاقِرًا فَهَبْ لِي مِنْ لَدُنْكَ وَلِيًّا ⑤ يَرِيثُنِي وَيَرْثُ مِنِّي  
 وَأِلَّالِي يَعْقُوبُ وَاجْعَلْهُ رَبِّ رَضِيًّا ⑥ يَنْزَكْرِيَّا إِنَّا  
 نُبَشِّرُكَ بِغُلَامٍ اسْمُهُ يَسْحَى لَمْ نجْعَلْ لَهُ مِنْ قَبْلُ سَمِيًّا  
 ⑦ قَالَ رَبِّ أَنَّى يَكُونُ لِي غُلَامٌ وَكَانَتِ امْرَأَتِي عَاقِرًا  
 وَقَدْ بَلَغْتُ مِنَ الْكِبَرِ عِتِيًّا ⑧ قَالَ كَذَلِكَ قَالَ  
 رَبُّكَ هُوَ عَلَى هَيْئٍ ⑨ وَقَدْ خَلَقْتِكُمْ مِنْ قَبْلُ وَلَمْ تَكُ  
 شَيْئًا ⑩ قَالَ رَبِّ اجْعَلْ لِي آيَةً ⑪ قَالَ آيَتُكَ الْأَلَّا  
 تُكَمُ التَّاسِ ثَلَاثَ لَيَالٍ سَوِيًّا ⑫ فَخَرَجَ عَلَى قَوْمِهِ مِنَ  
 الْمِحْرَابِ فَأَوْحَى إِلَيْهِمْ أَنْ سَبِّحُوا بُكْرَةً وَعَشِيًّا ⑬

## 本章の趣旨:

多神教徒やキリスト教徒の「神の子信仰」打破と人間へのアッラーのお慈悲がいかに大きいかの解説。

## 説明:

①『カーフ・ハー・ヤー・アイン・サード』雌牛(第2)章冒頭で類似のものに関する解説は前述のとおりである。

②これはあなたの主のお慈悲がその僕ザカリーヤ(平安あれ)にあったことを教訓のために物語るものである。

③より聞き上げられやすいよう、彼が完全無欠なる主に微かな声で祈りを捧げた時のこと。

④彼は言った。「主よ、私の骨は弱り、白髪は増えましたが、あなたへの祈りに絶望したことはありません。私があなたに祈るたびに、あなたはお応えくださいますから。

⑤私の死後、私の親族はこの世に気を取られて宗教について疎かにしてしまうのではないかと心配ですが、私の妻は不妊で子が産めません。どうか私の助けとなる子供をお恵みください。

⑥私から預言者性(ヌブーワ)を受け継ぎ、ヤアクーブ(平安あれ)の家族からそれを受け継ぐ者をお恵みください。そして主よ、どうかその子を信仰生活と人となり、知識について満足のいく者としてください。」

⑦アッラーはその祈りを受け入れられ、彼に呼びかけた。「ザカリーヤよ、われらはあなたが喜ぶことを知らせよう。あなたの祈りをわれらは聞き上げた。あなたにヤハヤーという名の子を授けよう。これまでにその名を持つ者がいたことはない。」

⑧アッラーのお力に驚きながらザカリーヤは言った。「子の産めない不妊の妻から、一体どのように子ができるというのでしょうか。私自身、もう晩年を迎えて身体も衰えたというのに。」

⑨天使が言った。「事はあなたが言ったとおりです。確かにあなたの妻は子の産めない不妊で、あなたも衰えた老体です。ですがあなたの主は仰せられました。「あなたの主がヤハヤーを不妊の母と老体の父から創造するのは容易いことである。すでにザカリーヤよ、われはあなたを無から造つただろう。」

⑩ザカリーヤ(平安あれ)は言った。「主よ、天使たちが私に祝福を告げてくれたことを指し示す印を、私が安心できるよう与えてください。」かれは仰せられた。「あなたが祝福を告げられたことの印は、健康でどこも悪くないのに三日三晩誰とも話ができなくなってしまふことである。」

⑪こうしてザカリーヤは礼拝室から人々のもとへ外に出て、話をするこなしに身振り手振りで、「完全無欠なアッラーを朝晩称えよ」と伝えたのである。

## 本諸節の功德:

- 弱さと無力さは、執り成し的手段としてはアッラーにとって最も好ましいものである。なぜならそれは自分には力などないということを示し、アッラーのお力と権能に心を寄せることになるからである。
- 祈りの中では、至高のアッラーの恩恵や畏怖に相応しいことを述べるのが望ましい。
- 宗教の御利益を切望し、それ以外のものよりも優先させること。
- 命名には、良い意味を持つ名が望ましい。

يَحْيَىٰ خُذِ الْكِتَابَ بِقُوَّةٍ وَآتَيْنَاهُ الْحِكْمَ صَبِيًّا ۗ  
 وَحَنَانًا مِّن لَّدُنَّا وَزَكَاةً ۗ وَكَانَ تَقِيًّا ۝١٣  
 يَكُن جَبَّارًا عَصِيًّا ۝١٤  
 وَسَلَّمْ عَلَيْهِ يَوْمَ وُلِدَ وَيَوْمَ يَمُوتُ  
 وَيَوْمَ يُبْعَثُ حَيًّا ۝١٥  
 وَأذْكَرْ فِي الْكِتَابِ مَرْيَمَ إِذِ انْتَبَذَتْ  
 مِن أَهْلِهَا مَكَانًا شَرْقِيًّا ۝١٦  
 فَاتَّخَذَتْ مِن دُونِهِمْ حِجَابًا  
 فَأَرْسَلْنَا إِلَيْهَا رُوحَنَا فَتَمَثَّلَ لَهَا بَشَرًا سَوِيًّا ۝١٧  
 قَالَتْ إِنِّي  
 أَعُوذُ بِالرَّحْمَنِ مِنْكَ إِن كُنْتَ تَقِيًّا ۝١٨  
 قَالَ إِنَّمَا أَنَا رَسُولُ  
 رَبِّكِ لِأَهَبَ لَكِ غُلَامًا زَكِيًّا ۝١٩  
 قَالَتْ أَنَّىٰ يَكُونُ لِي  
 غُلَامٌ وَلَمْ يَمَسِّنِي بَشَرٌ ۗ وَلَمْ أُكْبِغِيًّا ۝٢٠  
 قَالَ ذَلِكَ  
 قَالَ رَبُّكَ هُوَ عَلَيَّ هَيِّئٌ وَلِنَجْعَلَ لَهَا آيَةً لِّلنَّاسِ وَرَحْمَةً  
 مِّنَّا ۗ وَكَانَ أَمْرًا مَّقْضِيًّا ۝٢١  
 فَحَمَلَتْهُ فَانْتَبَذَتْ بِهِ  
 مَكَانًا قَصِيًّا ۝٢٢  
 فَأَجَاءَهَا الْمَخَاضُ إِلَىٰ جِذْعِ النَّخْلَةِ  
 قَالَتْ يَا لَيْتَنِي مِتُّ قَبْلَ هَذَا وَكُنْتُ نَسِيًّا مَّسِيًّا ۝٢٣  
 فَدَادَهَا مِّن تَحْتِهَا  
 الْإِنخِرَ نِي فِدَّ جَعَلَ رَبُّكِ تَحْتَكِ سَرِيًّا ۝٢٤  
 وَهَرِيءَ إِلَيْكَ بِجِذْعِ النَّخْلَةِ تُسَاقِطُ عَلَيْكَ رَطْبًا جَنِيًّا ۝٢٥

سورة مريم

12) そうですね彼のもとにヤハヤーが生まれ、話しかけられる年齢に達すると、**われら**は言った。「ヤハヤーよ、律法書を受け取り、真剣かつ最善の努力で臨め。」**われら**は彼に理解と知識、律義さと決意を少年期に与えたのである。

13) **われら**は彼に慈悲を授け、罪から清めた。アッラーの命令を実践し、禁止行為を避ける敬虔な者となったのである。

14) また彼は親孝行で両親に優しく最善を尽くす者となり、主に従い、親に従う上で傲慢な態度を取ることはなく、背くこともなかった。

15) 彼にはアッラーの御許より平安と安寧が、生まれた日、死んでこの世から出ていく日、清算の日に蘇らせられる日にある。これらの三カ所こそ人間が直面する中でも最も心細い日である。よってそこで安寧を得られたならば、ほかのときに恐れることはない。

16) 使徒よ、マルヤム(平安あれ)の知らせをクルアーンの中で述べよ。彼女が自分の家族の元を離れ、一人で東のほうへ行ったときのことである。

17) そうですね彼女は覆いをかけ、主への祈りの姿が他の人に見られないようにした。そこで**われら**はジブリール(平安あれ)を遣わし、美しい容姿をした人間の姿に変身して彼女の前に姿を現すと、彼女は何か悪さをされるのではないかと恐れた。

18) 彼女は美しい人間の姿をして近づいてくる彼を見ると言った。「私は慈悲深い御方に私をあなたから守っていただけるようご加護を求めます。あなたがアッラーを恐れる敬虔な人であったならですが。」

19) ジブリール(平安あれ)は言った。「私は人間ではありません。むしろ私はあなたの主があなたの元へと遣わした使徒であり、あなたに清らかな良い子を授けに参りました。」

20) マルヤムは驚いて言った。「夫も誰も私に近づいたことがないのに、不貞を働いたこともないのに、一体どのように私に子供ができるというのですか。」

21) ジブリールは彼女に言った。「事はあなたの言う通りです。夫も誰もあなたに近づいたことがなければ、あなたは不貞を働く人でもありません。でも完全無欠にして至高なるあなたの主は仰せられたのです。『父親なしに子を創造するのは、**われ**にとっては容易いことである。あなたに与えられた子は、人々にとってアッラーのお力を示す印となり、あなたやその子を信じる人にとっての慈悲となるだろう。このあなたの子の創造はすでにアッラーによって定められていたことであり、秘められた碑版に記されていたことなのである。』

22) そうですね天使の息吹の後、彼女は懐妊し、人々から遠く離れたところへ赴いた。

23) 産気づくと、ナツメヤシの木の幹を掴んでマルヤムは言った。「この日が来る前に死んでしまいたかった。あらぬ誤解を受けないでいように、私は何者にもなりたくなどなかった。」

24) そこでイーサーが彼女の足元から声をかけた。「悲しまないで。あなたの主があなたの足元に小川をご用意くださいました。」

25) ナツメヤシの根元を掴んで揺さぶれば、採れたての生のナツメヤシの実が落ちてきます。」

**本諸節の功德:**

- イスラームの教えで定められていることを実践するうえでの辛抱は必要である。
- アッラーの御許における親孝行の重要性と高い位階。アッラーへの感謝と同列に置かれたほどである。
- マルヤムに見せられた明らかな印を通してのアッラーのお力の完全さ。ただし、ナツメヤシの実が彼女のもとに届くよう手段を設けられたのも事実である。

فَكُلِّي وَأَشْرِبِي وَقَرِّي عَيْنًا فَمَا تَرَيْنَ مِنَ الْبَشَرِ أَحَدًا فَقُولِي  
 إِنِّي نَذَرْتُ لِلرَّحْمَنِ صَوْمًا فَلَنْ أُكَلِّمَ الْيَوْمَ إِنْسِيًّا ﴿٣٦﴾ فَأَتَتْ  
 بِهِ فَوَمَّهَا تَحْمِلُهُ وَقَالُوا أَيَّمِ امْرِئٍ لَقَدِ جِئْتِ شَيْئًا فَرِيضًا ﴿٣٧﴾  
 يَتَأَخَّرَتِ هُرُونَ مَا كَانَ أَبُوكَ أَمْرًا سَوْءًا وَمَا كَانَتْ  
 أُمُّكَ بَغِيًّا ﴿٣٨﴾ فَأَشَارَتْ إِلَيْهِ قَالُوا كَيْفَ نُكَلِّمُ مَنْ كَانَ فِي  
 الْأَمْتِ صَبِيًّا ﴿٣٩﴾ قَالَ إِنِّي عَبْدُ اللَّهِ آتَانِيَ الْكِتَابَ وَجَعَلَنِي  
 نَبِيًّا ﴿٤٠﴾ وَجَعَلَنِي مُبَارَكًا أَيْنَ مَا كُنْتُ وَأَوْصَانِي بِالصَّلَاةِ  
 وَالزَّكَاةِ مَا دُمْتُ حَيًّا ﴿٤١﴾ وَبِرَّأ بَوَالِدِي وَلَمْ يَجْعَلْنِي  
 جَبَّارًا شَقِيًّا ﴿٤٢﴾ وَالسَّلَامُ عَلَيَّ يَوْمَ وُلِدْتُ وَيَوْمَ أَمُوتُ  
 وَيَوْمَ أُبْعَثُ حَيًّا ﴿٤٣﴾ ذَلِكَ عِيسَى ابْنُ مَرْيَمَ قَوْلَ الْحَقِّ  
 الَّذِي فِيهِ يَمْتَرُونَ ﴿٤٤﴾ مَا كَانَ لِلَّهِ أَنْ يَتَّخِذَ مِنْ وَلَدٍ سُبْحَانَهُ  
 إِذَا قَضَىٰ أَمْرًا فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُ وَكُنْ فَيَكُونُ ﴿٤٥﴾ وَإِنَّ اللَّهَ رَبِّي وَرَبُّكُمْ  
 فَاعْبُدُوهُ هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ﴿٤٦﴾ فَاخْتَلَفَ الْأَحْزَابُ مِنْ  
 بَيْنِهِمْ فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ مَّشْهَدِ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٤٧﴾ أَسْمِعْ بِهِمْ  
 وَأَبْصِرْ يَوْمَ يَأْتُونَنَا لَكِنِ الظَّالِمُونَ الْيَوْمَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٤٨﴾

である。またこの言葉こそ、彼についての真実の言葉である。彼について不確かで異なった見解を持ち合う、道に迷った者たちの言説が正しいのではない。

〔35〕アッラーが子を持ってよいわけがないのである。かれはそうしたことに似つかわしくないほど格別に清浄で超越しておられる。何かをお望みになれば、完全無欠なかれにとってはそれについて「あれ」と仰せになりさえすれば、すなわち確実にあるのである。そのような方は子とは無縁だろう。

〔36〕本当に完全無欠なアッラーこそが私の主であり、あなたたち皆の主である。だからかれだけに誠意を込めて信仰行為を捧げよ。あなたたちに述べたこれこそがアッラーのご満悦につながる真っ直ぐな道なのである。

〔37〕イーサー（平安あれ）について見解の異なる者たちは袂を分かち、同じ民同士で別々の集団に分裂した。ある者たちは彼を信じて言った。「彼は使徒だ。」だがユダヤ教徒のように別の者たちは彼を拒み、別の集団は彼について行き過ぎた考えを持ち、「彼はアッラーだ」と言ったり、また別の集団は「彼はアッラーの子だ」と言ったりした。アッラーはそうしたことからかけ離れた高みにある御方。偉大な清算の日、真理の目撃と行いの清算かつ懲罰を目の当たりにする中で、彼について意見を違わせる者たちに災いあれ。

〔38〕その日われが彼らを聞かせることはなく、見せることもない。聞くことがもはや役に立たない時に彼らは聞き、見ることももはや役に立たない時に彼らは見るが、この世で不義をなす者たちは明らかに真っ直ぐな道から逸れて迷っており、間違った行いをする中で突然死が訪れるまであの世について備えようとしなさい。

### 本諸節の功德:

- マルヤムが沈黙を命じられたことから、状況によっては沈黙がより優れていることがわかる。
- 沈黙の誓いはイスラーム以前の教えでは許可されていたが、イスラームの教えではスンナ(預言者の慣行)がその禁止を示している。
- クルアーンが語るイーサーの創造についての話こそが疑いの余地なき真理であり、それ以外の数ある言説は使徒たる存在には相応しくない虚偽である。
- この世では、不信仰者は真理について話ができません、目も見えない。あの世では懲罰を見聞きすることになるものの、それが何かの役に立つことはない。

〔26〕「生のナツメヤシを食べ、お水を飲んでください。あなたの子で喜び、悲しまないでください。もし誰かに会って赤ん坊について問われたなら、『私は主に沈黙を誓ったので今日は誰とも話しません』とってください。」

〔27〕そしてマルヤムが息子を抱いて人々のもとへやってくる時、彼らは非難して言った。「マルヤムよ、父親なしの赤子を連れてくるなど、なんと恥知らずなとんでもないことをしたのか。」

〔28〕信仰行為においてハールーン(敬虔な人)に似た女よ、お前の父は姦淫を犯す人ではなく、お前の母も不貞を犯す人ではなかった。敬虔さで知られる清純な家の出だというのに、一体どうして父親なしの子を連れてくるのか!？」

〔29〕そこで彼女は揺りかごにいる息子のイーサーを指し示したが、彼女の民は驚いて言った。「揺りかごにいる赤子にどうやって話せというのか!？」

〔30〕イーサー(平安あれ)は言った。「私はアッラーの僕であり、福音書を与えてくださり、預言者の一人としてくださいました。」

〔31〕そして私がどこにいても皆にたくさん益をもたらす人とし、命ある限り礼拝を捧げ、施しを払うよう命じられました。

〔32〕また私を母親孝行な者とし、わが主に従ううえで傲慢な者とも反抗的な者ともなされませんでした。

〔33〕私の生まれた日にも、死ぬ日にも、清算の日に蘇らせられる日にも、悪魔とその仲間からは安泰でしょう。これら三つの心細い時においても、悪魔が私を惑わすことはありません。」

〔34〕こうした描写で表されるのがマルヤムの子イーサー

وَأَنْذَرَهُمْ يَوْمَ الْحَسْرَةِ إِذْ قُضِيَ الْأَمْرُ وَهُمْ فِي غَفْلَةٍ وَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٣٨﴾  
 إِنَّا نَخْنُ نُرِثُ الْأَرْضَ وَمَنْ عَلَيْهَا وَإِلَيْنَا يُرْجَعُونَ ﴿٣٩﴾ وَأَذْكُرُ  
 فِي الْكِتَابِ إِبْرَاهِيمَ إِنَّهُ كَانَ صِدِّيقًا نَبِيًّا ﴿٤٠﴾ إِذْ قَالَ لِأَبِيهِ يَا أَبَتِ  
 لِمَ تَعْبُدُ مَا لَا يَسْمَعُ وَلَا يُبْصِرُ وَلَا يُغْنِي عَنْكَ شَيْئًا ﴿٤١﴾ يَا أَبَتِ  
 إِنِّي قَدْ جَاءَنِي مِنَ الْعُلَمَاءِ مَا لَمْ يَأْتِكَ فَاتَّبِعْنِي أَهْدِكَ صِرَاطًا  
 سَوِيًّا ﴿٤٢﴾ يَا أَبَتِ لَا تَعْبُدِ الشَّيْطَانَ إِنَّ الشَّيْطَانَ كَانَ لِلرَّحْمَنِ  
 عَصِيًّا ﴿٤٣﴾ يَا أَبَتِ إِنِّي أَخَافُ أَنْ يَمَسَّكَ عَذَابٌ مِنَ الرَّحْمَنِ  
 فَتَكُونَ لِلشَّيْطَانِ وَلِيًّا ﴿٤٤﴾ قَالَ أَرَأَيْتَ أَنْتَ عَنْ ءَالِ هَيْتِي  
 يَا إِبْرَاهِيمُ لِمَ لَمْ تَتَنَّهُ لَآرْحَمَتَكَ وَأَهْجُرَنِي مَلِيًّا ﴿٤٥﴾ قَالَ  
 سَلَّمْتُ عَلَيْكَ سَأَسْتَغْفِرُ لَكَ رَبِّي إِنَّهُ كَانَ بِي حَفِيًّا ﴿٤٦﴾  
 وَأَعْتَرْتُكُمْ وَمَا تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ وَأَدْعُوا رَبِّي عَسَىٰ أَلَّا  
 أَكُونَ بِدُعَاءِ رَبِّي شَقِيًّا ﴿٤٧﴾ فَلَمَّا أَعْتَزَلْتَهُمْ وَمَا يَعْجُدُونَ مِنْ  
 دُونِ اللَّهِ وَهَبْنَا لَهُ إِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ كُلًّا جَعَلْنَا نَبِيًّا ﴿٤٨﴾  
 وَوَهَبْنَا لَهُمْ مِنْ رَحْمَتِنَا وَجَعَلْنَا لَهُمْ لِسَانَ صِدْقٍ عَلِيًّا ﴿٤٩﴾  
 وَأَذْكُرُ فِي الْكِتَابِ مُوسَىٰ إِنَّهُ كَانَ مُخْلَصًا وَكَانَ رَسُولًا نَبِيًّا ﴿٥٠﴾

39 使徒よ、人々に後悔の日を警告せよ。悪さをした者がそれを悔やみ、誠意を尽くした者が善行にもっと励めばよかったと悔やむのである。そのとき僕たちの行いを記録した書は開かれ、清算も済まされ、皆自分がなしたことを見せられる。生前この世に惑わされ、あの世のことなど気にすることなく、清算の日を信じようとはしなかった。

40 本当にわれらは被造物がいなくなった後も残る者であり、大地を継がせる者である。そこにいるものは消えゆくが、われらは残るためそれを継がせ、所有させ、われらが望むように自由にさせる。われらのもとのみ、彼らは清算の日に行いの清算と報いのために戻るのである。

41 使徒よ、あなたに下されたクルアーンにおいてイブラーヒーム(平安あれ)の知らせを述べよ。彼は誠実でアッラーの様々な印をよく信じる者であり、アッラーの御許からの預言者であった。

42 彼の父アザーザルに言ったときのこと。「父上、アッラー以外の偶像をなぜ崇めるのですか?あなたが祈っても、あなたの祈りを聞きはしないではないですか。あなたが信仰行為を捧げても、それを見ることはないではないですか。あなたから害を取り除くことも、益をもたらすこともないではありませんか。」

43 父上、あなたのもとにやってきたことのない知識が啓示を通して私にもたらされました。ですから私に従ってください。真っ直ぐな道へとお導きいたします。

44 父上、悪魔に仕えることで崇めてはなりません。本当に悪魔は慈悲深い御方への反抗者です。アダムへの跪拝を命じられたのに、跪拝しませんでした。

45 父上、あなたが不信仰の状態を死を迎えてしまったら、慈悲深い御方からの懲罰が降りかかるだろうとあなたのことが心配です。そうしたら、あなたの悪魔への忠誠のせいで懲罰においても道連れとなってしまうでしょう。」

46 アザーザルは息子イブラーヒームに言った。「イブラーヒームよ、お前は私が崇める偶像に反対するのか?私の偶像の悪口を言うのをやめないなら、お前に石を投げつけるぞ。しばらく私のものを離れ、話しかけるな。顔を見せるな。」

47 イブラーヒームは父親に言った。「あなたに平安がありますように。あなたが嫌なことはしません。あなたのために、私はお赦しとお導きをわが主にお願します。かれは私にとっても優しくしてくださる御方です。」

48 そして私はあなたから離れ、あなたがアッラー以外に崇めるものから離れます。私はわが主お一人のみに祈りを捧げ、ほかのものを神とすることはありません。祈っても報われないということのないように、きっとかれは私が祈ればそれを拒むことはないでしょう。」

49 そうして彼が彼らから離れ、彼らがアッラーとはほかに崇める神々から離れると、われらは彼に家族を失った代わりとして息子のイスマークを授け、孫のヤアクブを授け、それぞれを預言者とした。

50 われらは慈悲によって彼らに預言者性に加えて多くのよきものを与え、彼らのために僕たちが唱える継続的な称賛を与えた。

51 使徒よ、あなたに下されたクルアーンにおいてムーサー(平安あれ)の知らせを述べよ。彼は選抜された選良であり、使徒かつ預言者であった。

**本諸節の功德:**

- イブラーヒームが民を離れる際にサーラも同行したように、共通の恵みである孫の話が相応しいものとされた。それからイスマークの前にアッラーが授けられたイスマーイルについての話が個別になされた。
- 両親と話をする際は、礼節と優しさ、そして細やかな気遣いが大切であり、両親を呼ぶにあたっては最良の呼び方をすべきである。
- 罪が重なると、僕たる人間をアッラーのお慈悲から妨げることになり、そのいくつもの門を閉ざすことになる。同様に、忠実に従うことはかれのお慈悲を得る最大のきっかけとなる。
- すべての誠実な人がその誠意に応じて称賛されるというアッラーのお約束。イブラーヒーム(平安あれ)とその子孫は誠実な者たちのリーダー的存在である。

وَنَدَيْتَهُ مِنْ جَانِبِ الطُّورِ الْأَيْمَنِ وَقَرَّبْنَاهُ نَجِيًّا ٥٢ وَوَهَبْنَا لَهُ مِنْ رَحْمَتِنَا آخَاهُ هَارُونَ نَبِيًّا ٥٣ وَأَذْكُرُ فِي الْكِتَابِ إِسْمَاعِيلَ إِنَّهُ كَانَ صَادِقَ الْوَعْدِ وَكَانَ رَسُولًا نَبِيًّا ٥٤ وَكَانَ يَأْمُرُ أَهْلَهُ بِالصَّلَاةِ وَالزَّكَاةِ وَكَانَ عِنْدَ رَبِّهِ مَرْضِيًّا ٥٥ وَأَذْكُرُ فِي الْكِتَابِ إِدْرِيسَ إِنَّهُ كَانَ صِدِّيقًا نَبِيًّا ٥٦ وَرَفَعْنَاهُ مَكَانًا عَلِيًّا ٥٧ أُولَئِكَ الَّذِينَ أَنْعَمَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ مِنَ النَّبِيِّينَ مِنْ ذُرِّيَةِ آدَمَ وَمِمَّنْ حَمَلْنَا مَعَ نُوحٍ وَمِنْ ذُرِّيَةِ إِبْرَاهِيمَ وَإِسْرَائِيلَ وَمِمَّنْ هَدَيْنَا وَاجْتَبَيْنَا إِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ آيَاتُ الرَّحْمَنِ خَرُّوا سُجَّدًا وَبُكِيًّا ٥٨ فَخَلَفَ مِنْ بَدْرِهِمْ خَلْفٌ أَضَاعُوا الصَّلَاةَ وَاتَّبَعُوا الشَّهْوَاتِ فَسُوفَ يَلْقَوْنَ عَذَابًا ٥٩ إِلَّا مَنْ تَابَ وَآمَنَ وَعَمِلَ صَالِحًا فَأُولَئِكَ يَدْخُلُونَ الْجَنَّةَ وَلَا يُظْلَمُونَ شَيْئًا ٦٠ جَنَّتٍ عَدْنٍ الَّتِي وَعَدَ الرَّحْمَنُ عِبَادَهُ بِالْغَيْبِ إِنَّهُ كَانَ وَعْدُهُ مَأْتِيًّا ٦١ لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا نَغْوًا إِلَّا سَلَامًا وَلَهُمْ فِيهَا مَبْرُورَاتٌ مُغْسِيَاتٌ يَغْسِئْنَ بِهِنَّ الْأَنْفُسَ فَسَيَنزَلُ عَلَيْهُنَّ الْمُنْتَهَىٰ ٦٢ تِلْكَ الْجَنَّةُ الَّتِي نُورِثُ مِنْ عِبَادِنَا مَنْ كَانَ تَقِيًّا ٦٣ وَمَا نُنزِّلُ إِلَّا بِأَمْرِ رَبِّكَ لَهُو مَائِينَ بِأَيْدِينَا وَمَا خَلَقْنَا وَمَائِينَ ذَٰلِكَ وَمَا كَانَ رَبُّكَ لَيَسِيًّا ٦٤

سورة مريم

52 われらはムーサー(平安あれ)の居場所から右手の山より彼を呼び、アッラーがその御言葉を彼に聞かせるかたちで語りかけて近づかせた。

53 われらは慈悲と恩恵により彼が主に祈って願ったことを聞き遂げて、彼の兄弟ハールーン(平安あれ)を預言者とした。

54 使徒よ、あなたに下されたクルアーンにおいてイスマーイール(平安あれ)の知らせを述べよ。彼は約束に忠実な人であり、約束をしたときは必ずそれを守る人で、使徒かつ預言者であった。

55 彼は自分の家族に礼拝の確立や定めへの施しを払うように命じ、主の御許で満足された人であった。

56 使徒よ、あなたに下されたクルアーンにおいてイドリース(平安あれ)の知らせを述べよ。彼は誠実でアッラーの様々な印をよく信じる者であり、アッラーの預言者たちの一人であった。

57 われらは彼に預言者性を与えてその名を高め、高位の者とした。

58 この章で言及されているザカリーヤーに始まってイドリース(彼らに平安あれ)で終わる者たちこそ、アッラーが預言者性を与えることで恵まれたアーダムの子孫であり、ヌーフの船に乗せた者の子孫であり、イブラーヒームの子孫であり、ヤアクブの子孫であり、われらがイスラームの導きへ成功させた者たちや預言者として選り抜いた者たちである。彼らはアッラーの御言葉を聞けば、かれへの恐れから涙しながらアッラーに跪拝するのであった。

59 彼ら選ばれた預言者たちの後、悪と迷妄の後継者たちが続いた。彼らは礼拝を台無しにし、求められたかたちではなかった。姦淫のように自我が欲するまま罪を犯した彼らは、火獄では悪いものと失望に出くわすだろう。

60 自分の至らなさや行き過ぎた行いから悔い改めた者は別であり、アッラーを信じて善行をなす人、こうした特徴に当てはまる者たちは天国に入り、たとえ少しであれ、彼らの行いへの報奨が減ることはない。

61 定住と定着の庭園(天国)という、慈悲深い御方が敬虔な僕たちに約束されたものである。彼らはそれを見ずして信じるに至った。天国入りのアッラーのお約束は、目に見えないことではあれ、必ずやってくるのである。

62 そこでは噂話や卑しい話を聞くことはなく、お互いに交し合う平安の言葉、天使たちの平安の言葉を聞き、朝晩食べたいものを得られるだろう。

63 こうした特徴で言い表される天国を、われらは命令に従い、禁止を避ける僕たちに受け継がせる。完全無欠なかれは、神を意識する者が得る報奨を述べると、神を意識するとはそのご命令を前に立ち止まることだということを述べ、仰せられた。

64 ジブリールよ、ムハンマド(祝福と平安あれ)に言え。「天使たちは自分の意志で舞い降りたりはせず、アッラーのご命令によって舞い降りるのです。アッラーは迎えるあの世のことも、すでに過ぎたこの世のことも、この世とあの世の間のことすべて掌握しておられ、あなたの主は、何一つお忘れにはならないのです。」

**本諸節の功德:**

- 伝教に携わる人には、常に援助してくれる人たちが必要である。
- 至高のアッラーには、話ができるという性質が確かにある。
- 約束を守ることは尊いことであり、預言者や使徒たちの人徳にかなうものであるが、その反対の違反は非難されることである。
- 天使たちは啓示をもたらすアッラーの使徒であり、アッラーのご命令なしには誰であれ人間の預言者や使徒に下ることはない。

رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا فَاعْبُدْهُ وَاصْطَبِرْ لِعِبَادَتِهِ هَلْ تَعْلَمُ لَهُ سَمِيًّا ﴿٦٥﴾ وَيَقُولُ الْإِنْسَانُ أَإِذَا مَا مِثُّ لَسَوْفَ أَخْرَجُ حَيًّا ﴿٦٦﴾ أَوْ لَا يَذْكُرُ الْإِنْسَانُ أَنَّا خَلَقْنَاهُ مِنْ قَبْلُ وَكُنَّا بِكَ شَيْعًا ﴿٦٧﴾ فَوَرِّبِكَ لِنَحْشُرَ رَهْمَهُ وَالشَّيْطِينَ ثُمَّ لَنَحْضُرَ رَهْمَهُ حَوْلَ جَهَنَّمَ جِثِيًّا ﴿٦٨﴾ ثُمَّ لَنَنْزِعَنَّ مِنْ كُلِّ شِيعَةٍ أَيُّهُمْ أَشَدُّ عَلَى الرَّحْمَنِ عِتِيًّا ﴿٦٩﴾ ثُمَّ لَنَحْنُ أَعْلَمُ بِالَّذِينَ هُمْ أَوْلَىٰ بِهَا صِلِيًّا ﴿٧٠﴾ وَإِنْ مِنْكُمْ إِلَّا وَارِدُهَا كَانَ عَلَىٰ رَبِّكَ حَتْمًا مَقْضِيًّا ﴿٧١﴾ ثُمَّ نَنْجِي الَّذِينَ اتَّقَوْا وَنَذَرُ الظَّالِمِينَ فِيهَا جِثِيًّا ﴿٧٢﴾ وَإِذْ اتَّخَذْنَا عَلَيْهِمْ آيَاتِنَا يَتَّبِعْتِ قَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا أَيُّ الْفَرِيقَيْنِ خَيْرٌ مَقَامًا وَأَحْسَنُ نَدِيًّا ﴿٧٣﴾ وَكَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُمْ مِنْ قَرْنٍ هُمْ أَحْسَنُ أَثْنًا وَرِيًّا ﴿٧٤﴾ قُلْ مَنْ كَانَ فِي الضَّلَالَةِ فَلْيَمْدُدْهُ الرَّحْمَنُ مَدًّا حَتَّىٰ إِذَا رَأَوْا مَأْوِعَدُونَ إِمَّا الْعَذَابَ وَإِمَّا السَّاعَةَ فَسَيَعْلَمُونَ مَنْ هُوَ شَرٌّ مَكَانًا وَأَضْعَفُ جُنْدًا ﴿٧٥﴾ وَيَرْيِدُ اللَّهُ الَّذِينَ اهْتَدَوْا هُدًى وَالْبَاقِيَتِ الصَّالِحَاتِ خَيْرٌ عِنْدَ رَبِّكَ ثَوَابًا وَخَيْرٌ مَرَدًّا ﴿٧٦﴾

65 諸天と大地の創造者であり、その二つを所有し司り、それらの間にあるものの創造者にして所有者かつ管理者である、かれだけを崇めよ。かれこそは崇拜に値する御方である。また、かれにお仕えするうえで足元を固めよ。崇拜を分かつような似た者や等しい者はかれにはないのである。

66 復活を否定する不信仰者は嘲って言う。「私が死んでから墓から生きたまま出て生き返るといふのか？そんなことがあるわけないだろう。」

67 復活を否定するこの男は、われらが元々何もなかったところからその者を創造したのを思い出さないのか。最初の創造が可能であれば、二度目の創造も可能であることは証明されるというもの。二度目の創造のほうが簡単で容易なのだから。

68 あなたの主にかけて、使徒よ、われらは彼らを墓の中から出させ、彼らを迷わせた悪魔たちとともに一つ所へ集めるだろう。それからわれらは彼らを火獄の門の前へ膝立ち状態の惨めなかたちで引き連れていくのである。

69 それからわれらは、彼ら迷妄の集団の中でも最も罪深い彼らの指導者たちを集団ごとに激しく乱暴に呼び集めるだろう。

70 それからわれらは、彼らの中でも誰が火獄行きと厳しく辛いその熱さに相応しいかを誰よりもよく知るのである。

71 人々よ、あなたたちのうち誰もが、火獄の真ただ中に架けられた橋の上を通らなければならない。これはアッラーの定めで決められたことであり、誰もその定めを覆すことはできないのである。

72 それからこの橋の上の通過の後で、かれのご命令に従い、禁止を避けることで主を意識する者たちは安全なところに行かせ、不義をなす者たちは膝立ち状態のまま放っておき、そこから逃げられないだろう。

73 人々にわれらの使徒に下された啓示が明らかに読み上げられても、不信仰者は信者に言うだろう。「私たちのうちどちらが住まいにおいて優れ、集まりにおいて秀でているだろうか。私たちの集団か、それともあなたたちの集団か。」

74 こうした己の物質的利点に自信満々な不信仰者たちの前にわれらが滅ぼしたとれほど多くの共同体が、彼らよりも財産の上でも、豪華な見かけの上でも、身体に贅沢をさせる上でもより優れていたことだろう。

75 言いなさい、使徒よ。「迷いの中で転げ回る人には、慈悲深い御方はその迷いがさらに増すように猶予を与えられるでしょう。この世で急かされた懲罰あるいは清算の日に後回しにされた懲罰といった約束されたことを目の当たりにし、誰が立場的にも援助者の数からいってもどちらがより悪くより少ないか、彼らの集団か信者たちの集団かを知るでしょう。」

76 彼らの迷いが増すように猶予を与えられるとは反対に、導かれた者たちには信仰と従順さを増やしてください。使徒よ、永遠の幸せにつながる善行こそがあなたの主の御許では報奨としてより役に立ち、結末としてよりよいのである。

**本諸節の功德:**

- 信者にとっては、命じられたことに従事し、できる限りそれを継続することが大切である。
- すべての被造物が火獄の前に引き連れていかれること、すなわち火獄に入ることではなく橋を通過することは、間違いない起こる出来事である。
- 宗教のものさしと正しい理解は、無知で愚かな人たちや一般大衆の想像とは異なる。
- 迷妄に溺れ、不信仰に漬かりきってしまった人をアッラーは、その人の高慢さがさらに増し、より厳しい懲罰を受けることになるよう、その無知と不信仰の流れに任せてしまわれる。
- アッラーは信者たちの信仰を不動のものとしてくださり、成功と援助をさらに富ませてくださる。彼らへの報奨として、神への意識が高まるきっかけとなるアッラーの印が下される。

أَفَرَأَيْتَ الَّذِي كَفَرَ بِآيَاتِنَا وَقَالَ لَأُوتِيَنَّ مَالًا وَوَلَدًا  
 ﴿٧٧﴾ أَطَّلَعَ الْغَيْبَ أَمْ أَخَذَ عِنْدَ الرَّحْمَنِ عَهْدًا ﴿٧٨﴾ كَلَّا  
 سَنَكْتُبُ مَا يَفْعُلُ وَنَمُدُّ لَهُ مِنَ الْعَذَابِ مَدًّا ﴿٧٩﴾ وَنُرْثِيهِ  
 مَا يَفْعُلُ وَيَأْتِينَا فَرْدًا ﴿٨٠﴾ وَأَخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ إِلَهَةً  
 لِيَكُونُوا لَهُمْ عِزًّا ﴿٨١﴾ كَلَّا سَيَكْفُرُونَ بِعِبَادَتِهِمْ وَيَكُونُونَ  
 عَلَيْهِمْ ضِدًّا ﴿٨٢﴾ أَلَمْ تَرَ أَنَّا أَرْسَلْنَا الشَّيَاطِينَ عَلَى الْكَافِرِينَ  
 تَوْرِهِمْ أَزًّا ﴿٨٣﴾ فَلَا تَعْجَلْ عَلَيْهِمْ إِنَّمَا نَعُدُّ لَهُمْ عَذَابًا ﴿٨٤﴾  
 يَوْمَ نَحْشُرُ الْمُتَّقِينَ إِلَى الرَّحْمَنِ وَفْدًا ﴿٨٥﴾ وَلسَوْفَ الْمُجْرِمِينَ  
 إِلَى جَهَنَّمَ وَرِدًّا ﴿٨٦﴾ لَا يَمْلِكُونَ الشَّفْعَةَ إِلَّا مَنِ اخْتَدَعَ عِنْدَ  
 الرَّحْمَنِ عَهْدًا ﴿٨٧﴾ وَقَالُوا اخْتَدَعَ الرَّحْمَنُ وَلَدًا ﴿٨٨﴾ لَقَدْ  
 جِئْتُمْ شَيْئًا إِذَا ﴿٨٩﴾ تَكَادُ السَّمَوَاتُ يَتَفَطَّرْنَ مِنْهُ  
 وَتَنْشَقُّ الْأَرْضُ وَتَخِرُّ الْجِبَالُ هَدًّا ﴿٩٠﴾ أَنْ دَعَوْا لِلرَّحْمَنِ وَلَدًا  
 ﴿٩١﴾ وَمَا يَنْبَغِي لِلرَّحْمَنِ أَنْ يَتَّخِذَ وَلَدًا ﴿٩٢﴾ إِنْ كُلُّ مَنْ فِي  
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ إِلَّا آتَى الرَّحْمَنِ عَبْدًا ﴿٩٣﴾ لَقَدْ أَحْصَاهُمْ  
 وَعَدَّهُمْ عَدًّا ﴿٩٤﴾ وَكُلُّهُمْ آتِيهِ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فَرْدًا ﴿٩٥﴾

﴿77﴾使徒よ、われらの数々の証拠を拒み、われらの警告を否定して、「もし私が死んだ後復活したなら、大金も子孫も与えられるだろう」と言う輩を見たか。

﴿78﴾目に見えない世界のことを知った上で、証拠があつて言っているのか。あるいは主の御許で天国入りと大金や子孫を得る誓約を交わしたのか。

﴿79﴾事は彼が思い込むようではない。われらは彼が言うことやすることを書き留め、虚偽の主張をでっち上げたことに対して懲罰の上に懲罰を加えるだろう。

﴿80﴾そしてわれらが彼を滅ぼした後はその財産や子孫を受け継ぎ、清算の日には生前彼が享受していた財産や名誉を剥ぎ取られた独り身の状態でやって来るだろう。

﴿81﴾多神教徒はアッラーとは別のものを崇拜対象とし、助けを乞う自分たちの援助者としようとした。

﴿82﴾事は彼らが思い込むようではない。アッラーの他に彼らが崇めるこうした崇拜対象は、清算の日には多神教徒の信仰行為を否定し、自分たちは無関係だと敵意を露わにするだろう。

﴿83﴾使徒よ、われらが不信仰者に悪魔を送って支配させ、違反行為やアッラーの教えへの妨害をそそのかすのを見たか。

﴿84﴾だから使徒よ、彼らが滅びるのをアッラーに急がして頼んではならない。われらは彼らの生涯を囲い込み、彼らへの猶予の時が終わり次第彼らに相応しい罰を与えるのである。

﴿85﴾使徒よ、ご命令を果たし、禁止を避けることで主を意識する者たちを集め、誇らしげに歓待を受ける集団として主の御許へ連れて行かれる清算の日を思い起こせ。

﴿86﴾渴きを訴える不信仰者を火獄へと引き連れよう。

﴿87﴾これらの不信仰者が互いに執り成すことはできない。ただし生前この世でアッラーとその使徒を信じるという誓約を交わしていた者だけは別である。

﴿88﴾ユダヤ教徒とキリスト教徒、そしてある多神教徒らは言った。「慈悲深い御方は子を持たれる。」

﴿89﴾これを唱える者たちよ、あなたたちは大変な事をした。

﴿90﴾諸天はこのひどい言説に引き裂かれ、大地は割れ、山は崩れ落ちそうなほどである。

﴿91﴾これらはすべて彼らが慈悲深い御方に子供を持たせるようなことを言ったからである。アッラーはこうしたことから、いと高くおわせられる。

﴿92﴾慈悲深い御方が子を持つなど、かれの完全無欠さからはあり得ないことである。

﴿93﴾諸天と大地にいる天使や人間やジンの中で、清算の日に身を屈めつつ主の御許へやって来ない者はいない。

﴿94﴾かれは彼らを知り尽くし、包囲し、不鮮明なことなど何一つない。

﴿95﴾彼らのうち一人一人が清算の日には援助者も財産もなしにたった一人でかれの御許へやって来るのである。

**本諸節の功德:**

- 不信仰者の軽率さと浅はかさ、甘い期待を章句は示しているが、あの世では正反対の事を見出すことになる。
- アッラーは悪への誘惑と挑発、従順さから反抗へとおびき出すことで悪魔に不信仰者を支配させる。
- 徳と知識、敬虔さの民は清算の日にはアッラーのお許しによって執り成しができる。

إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ سَيَجْعَلُ لَهُمُ  
الرَّحْمَنُ وُدًّا ﴿٦٦﴾ فَإِنَّمَا يَسَّرْنَاهُ بِلِسَانِكَ لِتُبَشِّرَ بِهِ  
الْمُتَّقِينَ وَتُنذِرَ بِهِ قَوْمًا لَدُنَّا ﴿٦٧﴾ وَكَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُم  
مِّن قَرْنٍ هَلْ يُحِشُّ مِنْهُمْ مِّنْ أَحَدٍ أَوْ تَسْمَعُ لَهُمْ رِكْزًا ﴿٦٨﴾

سُورَةُ طه ﴿٦٦﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ  
طه ﴿١﴾ مَا أَنْزَلْنَا عَلَيْكَ الْقُرْآنَ لِتَشْقَى ﴿٢﴾ إِلَّا تَذَكَّرَ  
لَمَن يَخْشَى ﴿٣﴾ تَنْزِيلًا مِّمَّنْ خَلَقَ الْأَرْضَ وَالسَّمَوَاتِ الْعُلَى ﴿٤﴾  
الرَّحْمَنُ عَلَى الْعَرْشِ اسْتَوَى ﴿٥﴾ لَهُ وَمَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي  
الْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا وَمَا تَحْتَ الثَّرَى ﴿٦﴾ وَإِن يُجْهَرُ بِالْقَوْلِ  
فَإِنَّهُ يَعْلَمُ السِّرَّ وَأَخْفَى ﴿٧﴾ اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ لَهُ الْأَسْمَاءُ  
الْحُسْنَى ﴿٨﴾ وَهَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ مُوسَى ﴿٩﴾ إِذْ رَأَى نَارًا  
فَقَالَ لِأَهْلِهِ امْكُثُوا إِنِّي آنَسْتُ نَارَ الْعَلِيِّ اتِّكُمُ مِنْهَا بِقَبَسٍ  
أَوْ أُجِدُّ عَلَى النَّارِ هُدًى ﴿١٠﴾ فَلَمَّا أَتَاهَا نُودِيَ يَمْسُرُ ﴿١١﴾ إِنِّي  
أَنَا رَبُّكَ فَاحْلَعْ ثَعْلَبَكَ إِنَّكَ بِالْوَادِ الْمُقَدَّسِ طُوًى ﴿١٢﴾

- ⑨6 本来にアッラーを信じてその御許において満足される善行を行う者は、アッラーは彼らのために愛を与え、僕たちに好かれるようにしてください。
- ⑨7 使徒よ、このクルアーンがあなたの口で下されるのは、われらにとって喜ばしいことである。あなたはそれでご命令を果たし、禁止を避けることで神を意識する者たちに吉報を告げ、激しく諍(いさか)い真理に従うのを高慢に拒む民をそれで脅かすのだ。
- ⑨8 あなたの民の前にどれほど多くの共同体をわれらは滅ぼしたのか。今日、あなたはそのうちの一つでも感じることができだろうか。彼らの微かな声が聞こえるだろうか。アッラーのお許しがあれば、彼らに起こったことは他の者たちにも起こりうるのである。

20. ター・ハー章  
マッカ啓示

**本章の趣旨:**  
幸福はクルアーンの導きに従い、そのメッセージを担うことによって得られ、不幸はそれに背くことによる。

- 説明:**
- ① 『ター・ハー』雌牛(第2)章冒頭で類似のものに関する解説は前述のとおりである。
  - ② 使徒よ、われらがあなたにクルアーンを下したのは、心労を与え、あなたの民が信じようとしないことで悲しませるためではない。
  - ③ われらがそれを下したのは、畏怖できるようなアッラーが成功させてくださった者への訓戒としてである。
  - ④ それを下したのは、大地を創造し、高々とした諸天を創造したアッラーである。それは偉大なクルアーンである。偉大なる御方から下されたからである。
  - ⑤ 慈悲深い御方は、かれの荘厳さに相応しい高みで玉座の上に高く昇られた。
  - ⑥ 完全無欠なかれだけにこそ、諸天にあるものも大地にあるものも土の中にある被造物も、その生死も所有も計画もすべてある。
  - ⑦ 使徒よ、あなたが発言を公にしようとしまいと、完全無欠なかれはすべてをご存知であり、秘密はおろか胸中をよぎる思いなどの秘密よりも秘められたことを知っており、かれにとって不鮮明なことは何一つないのである。
  - ⑧ アッラー、かれのほかにも正しく崇拜に値する存在はない。かれにのみ善良の極みたる名は相応しい。預言者(祝福と平安あれ)が自分の民の反対にあって悩んでいるときに、ムーサー(平安あれ)の物語で彼を励ますべく、かれは仰せられた。
  - ⑨ 使徒よ、あなたにはムーサー・ビン・イムラーン(平安あれ)の知らせが届いたはずである。
  - ⑩ 道中火を見つけ、家族に言ったときのこと。「ここにいなさい。火を見かけたから、灯火として持ってくるができるかもしれない、あるいは誰か道案内をしてくれる人を見つけることができるかもしれないから行って。」
  - ⑪ そうして彼が火のところにやって来ると、完全無欠なるアッラーが「ムーサーよ」と呼びかけた。
  - ⑫ われはあなたの主である。われとの語らいに備え、履き物を脱げ。あなたは清らかな谷トウワーにいるのだ。」

- 本諸節の功德:**
- 偉大なクルアーンの啓示は信仰行為で自我を疲労させるためでも、大変な困難を味わわせるためでもない。むしろそれは主を意識する者たちが役立てる訓戒の書である。
  - アッラーは創造と命令を揃え置かれた。創造に英知が秘められているように、公平かつ英知あることしか命じること禁じることもない。
  - 夫には、妻のための衣食住や寒いときには暖房などの扶養が義務付けられる。

وَأَنَا اخْتَرْتُكَ فَاسْتَمِعْ لِمَا يُوحَىٰ ﴿١٧﴾ إِنِّي أَنَا اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا أَنَا فَاعْبُدْنِي وَأَقِمِ الصَّلَاةَ لِذِكْرِي ﴿١٨﴾ إِنَّ السَّاعَةَ آتِيَةٌ أَكَادُ أُخْفِيهَا لَتُجْزَىٰ كُلُّ نَفْسٍ بِمَا تَسْعَىٰ ﴿١٩﴾ فَلَا يَصُدُّكَ عَنْهَا مَن لَّا يُؤْمِنُ بِهَا وَاتَّبَعَ هَوَاهُ فَتَرْدَىٰ ﴿٢٠﴾ وَمَا تَلَكَ بِيَمِينِكَ يَمْوَسَىٰ ﴿٢١﴾ قَالَ هِيَ عَصَايَ أَتَوَكَّوْا عَلَيَّهَا وَاهْشُ بِهَا عَلَ غُنْمِي وَلِي فِيهَا مَنَارِبٌ أُخْرَىٰ ﴿٢٢﴾ قَالَ أَلَيْسَ لِي بِمُوسَىٰ ﴿٢٣﴾ فَأَلْقَاهَا فَإِذَا هِيَ حَبِيبَةٌ تُسْعَىٰ ﴿٢٤﴾ قَالَ خُذْهَا وَلَا تَخَفْ سَنُعِيدُهَا سِيرَتَهَا الْأُولَىٰ ﴿٢٥﴾ وَأَصْمَمَ يَدُكَ إِلَىٰ جَنَاحِكَ فَخَرَّجَ بَيْضَاءَ مِنْ غَيْرِ سُوءٍ آيَةً أُخْرَىٰ ﴿٢٦﴾ لِنُرْيِكَ مِنْ آيَاتِنَا الْكُبْرَىٰ ﴿٢٧﴾ أَذْهَبَ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ طَغَىٰ ﴿٢٨﴾ قَالَ رَبِّ اشْرَحْ لِي صَدْرِي ﴿٢٩﴾ وَيَسِّرْ لِي أَمْرِي ﴿٣٠﴾ وَأَحْلِلْ عُقْدَةَ مِنِّي لَيْسَانِي يَفْقَهُوا قَوْلِي ﴿٣١﴾ وَأَجْعَلْ لِي وَزِيرًا مِّنْ أَهْلِي ﴿٣٢﴾ هَرُونَ أَخِي ﴿٣٣﴾ أَشَدُّ دِينًا مِنِّي ﴿٣٤﴾ وَأَشْرَكَ فِي أَمْرِي ﴿٣٥﴾ كَيْ نُنسِخَكَ كِتَابًا وَنَذْكُرَكَ كَبِيرًا ﴿٣٦﴾ إِنَّكَ كُنْتَ بِنَاصِرًا ﴿٣٧﴾ قَالَ قَدْ أُوتِيتَ سُؤْلَكَ يَمْوَسَىٰ ﴿٣٨﴾ وَلَقَدْ مَنَّا عَلَيْكَ مَرَّةً أُخْرَىٰ ﴿٣٩﴾

⑬「ムーサーよ、われはあなたをわれのメッセージを伝えるために選んだのである。だからわれがあなたに啓示するものをしかと聴け。」

⑭「われこそはアッラーであり、われのほかには崇拝に値するものはない。われだけを崇めよ。われを思い起こすために、完全なかたちで礼拝を捧げよ。」

⑮本当にその時(清算の日の到来)は間違いなくやって来て現実のものとなる。われはそれをほとんどわからないものとし、被造物には誰にもその時はわからない。ただ、預言者の知らせよりその予兆は知っている者もある。すべての魂が自分の行ったことの報いを良くも悪くも受けるのである。

⑯だからそれを信じようとしなない不信仰者にあなたがそれを信じて善行による備えをすることから気を逸らせてはならない。禁じられたことを欲しても、それに従って身を滅ぼしてはならない。

⑰あなたの右手にあるものは何か、ムーサーよ。

⑱ムーサー(平安あれ)は言った。「それは私の杖です。歩くときの支えとしています。私の羊の餌に木の葉をそれで落とすこともあります。また他にも役立てていることがあります。」

⑲アッラーは仰せられた。「それを投げよ、ムーサーよ」

⑳そうしてムーサーがそれを投げると、それは蛇に変身し、素早く身軽に動き始めた。

㉑アッラーはムーサーに仰せられた。「杖を取れ。蛇に変わったのを恐れるな。あなたがそれを取れば、われらはそれを元のかたちに戻すだろう。」

㉒あなたの手を懐に入れてから出せば、ハンセン病ではなしに真っ白な手となるのは、あなたにとっての二つ目の印である。

㉓ムーサーよ、われらがこれら二つの印をあなたに見せたのは、われらの全能さを示す偉大な印を見せるためであり、あなたがアッラーの御許より来る使徒であることの証なのである。

㉔ムーサーよ、フィルアウン(ファラオ)のもとへ行け。彼は不信仰とアッラーへの反抗で一線を越えてしまった。

⑲ムーサーは言った。「主よ、私が嫌がらせに耐えられるよう、どうか私の心を広くしてください。」

⑳「私の事を容易くしてください。」

㉑「正確な話ができるよう、私がかちんと発話できるようにしてください。」

㉒「あなたのメッセージを私が伝えようとするとき、彼らが私の話を理解できるようにしてください。」

㉓「私の家族から援助者をご用意ください。」

㉔「私の兄弟、イムラーンの子ハールーンを。」

㉕「彼を通して私を支えてください。」

㉖「使命を負うことにおいて、彼を私の協力者としてください。」

㉗「私たちがあなたを数多く讃えることができるように。」

㉘「そしてあなたのことを数多く思い起こすことができるように。」

㉙「本当にあなたは私たちを見てくださっており、私たちのことであなたにわからないことなど何もありません。」

㉚アッラーは仰せられた。「ムーサーよ、われらはあなたが求めたものを与えた。」

㉛われらはあなたに再び恵みを与えたのである。」

### 本諸節の功德:

●大切な事にはよく耳を傾けること。中でも最も重要なのはアッラーからの啓示である。

●ムーサーへの最初の啓示には、信条における二つの基本が込められている。アッラーの唯一性を認めること。そして最後の時への信仰である。また、信仰のあとに最も重要な義務は礼拝である。

●伝教に携わる者たち間の協力は、本来の目的を遂行するためにも必要不可欠である。アッラーはムーサーのために兄弟のハールーンを預言者とされ、使命を果たす上での助けとされた。

●伝教者には、メッセージを伝えたい人たちに自分の話を理解してもらうスキルが重要である。

إِذْ أَوْحَيْنَا إِلَىٰ أُمِّكَ مَا يُوحَىٰ ۖ أَنْ أَقْبِدِي فِي التَّابُوتِ فَأَقْبِدِيهِ  
 فِي الْيَمِّ فَلْيَلْقِهِ الْيَمُّ بِالسَّاحِلِ يَأْخُذْهُ عَدُوِّي وَعَدُوْلُهُ وَأَلْقَيْتُ  
 عَلَيْكَ مَحَبَّةَ مَنِّي وَلَمْ نَصْنَعْ عَلَىٰ عَيْنِي ۖ إِذْ تَمَسَّتْ أُخْرُكَ فَتَقُولُ  
 هَلْ أَدُلُّكُمْ عَلَىٰ مَن يَكْفُلُهُ ۖ فَرَجَعْنَاكَ إِلَىٰ أُمِّكَ كَيْ تَقَرَّ عَيْنُهَا  
 وَلَا تَحْزَنَ ۚ وَوَقَدْتِ نَفْسًا فَجَبَيْتَنَا مِنَ الْعَمْرِ وَفَتَّكَ فُتُونًا  
 فَلَيْتَ سَيِّئِينَ فِي أَهْلِ مَدْيَنَ ثُمَّ جِئْتَ عَلَىٰ قَدَرٍ يَمْوَسَىٰ ۖ  
 وَأَصْطَنَعْتَكُ لِنَفْسِي ۖ أَذْهَبَ أَنْتَ وَأَخُوكَ بِأَيْتِي وَلَا  
 تِيَابِي ذِكْرِي ۖ أَذْهَبَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ طَغَىٰ ۖ فَقُولَا لَهُ قَوْلًا  
 لَّيِّنًا لَّعَلَّهُ يَتَذَكَّرُ أَوْ يَحْشَىٰ ۖ قَالَ لَرَبِّنَا إِنَّا نَخَافُ أَن يُفْرِطَ  
 عَلَيْنَا أَوْ أَن يَطَّعِنَا ۖ قَالَ لَا تَحْزَنْ إِنِّي مَعَكُمْ أَسْمَعُ وَأَرَىٰ  
 ۖ فَأْتِيَاهُ فَقُولَا إِنَّا رَسُولَا رَبِّكَ فَأَرْسِلْ مَعَنَا بَنِي إِسْرَائِيلَ  
 وَلَا تَعَذِّبْهُمْ ۖ قَدْ جِئْنَاكَ بِآيَاتٍ مِّن رَّبِّكَ وَالسَّلَامُ عَلَيْنَا مَنِ اتَّبَعَ  
 الْهُدَىٰ ۖ إِنَّا قَدْ أُوحِيَ إِلَيْنَا أَنَّ الْعَذَابَ عَلَىٰ مَن كَذَبَ  
 وَتَوَلَّىٰ ۖ قَالَ فَمَنْ رَبُّكُمْ يَا مَوْسَىٰ ۖ قَالَ رَبُّنَا الَّذِي أَعْطَىٰ  
 كُلَّ شَيْءٍ حَاقِلَهُ ۖ ثُمَّ هَدَىٰ ۖ قَالَ فَمَا بَالُ الْقُرُونِ الْأُولَىٰ ۗ

38 「われらがあなたの母親に閃きを与え、フィルアンの謀略からあなたを守るすべを閃かせたときのこと。

39 われらは彼女に閃きを与えたときに命じた。「その子を産んだら、籠に入れて海に流すがよい。われらの命により、海がその籠を浜辺に打ち上げさせ、われにとってもその子にとっても敵であるフィルアンがその籠を拾い上げよう。われはその子にわれの愛を授けた。皆がその子を愛するだろう。そしてその子はわれの気配りと庇護と養育のもとに育つのだ。」

40 あなたの姉が外に出て、籠の後をつけ、それを拾い上げた者に言ったときのこと。「その子の世話をして乳をやる人を紹介しましょうか？」そうしてわれらはあなたへの恩恵としてあなたを母親の元に返したのである。あなたが戻ったのを、あなたの母親はさぞかし喜んだことだろう。だから悲しんではならない。あなたがコプト教徒を殴って殺してしまったときも、あなたへの恩恵として罰から免れるようにしただろう。あなたが遭遇した試練のたびに、われらはあなたを救ってきたのである。また、あなたは外地に行きマドヤンの民のもとで何年も過ごした。そうしてムーサーよ、あなたは定められた時にあなたに話しかけられるようやって来たのである。

41 われはあなたをわれの使徒として選んだのだ。われから啓示されたことを人々に伝えよ。

42 ムーサーよ、あなたの兄弟ハールーンと一緒に、アッラーの御力と唯一性を示す印とともに行くがよい。われへのいざないとわれを思い起こすことにおいて、弱音を吐いてはならない。

43 二人でフィルアンのもとへ行け。彼は不信仰とアッラーへの反逆において度を越したのである。

44 彼に荒々しい言葉ではなく優しい言葉をかけよ。思い起こし、アッラーを恐れて悔い改めるかもしれないからである。

45 ムーサーとハールーン(二人に平安あれ)は言った。「私たちが彼への働きかけを終える前に懲罰が急かされてしまうのではないか、あるいは彼自身が私たちを殺すなり何なりして一線を踏み越えてしまうのではないか心配です。」

46 アッラーは二人に仰せられた。「恐れることはない。われはあなたたち二人とともにあり、支援と援助を与えよう。われはあなたたち二人と彼との間で何が起るかを見聞きしている。」

47 彼のもとに行き、言うのだ。「フィルアンよ、私たち二人はあなたの主の遣いです。私たちとともにイスラエルの民を遣わし給え。彼らの子どもたちを殺したり、女性を辱めたりしてはなりません。私たちが正しいことを言っている、主からの証となるものもあります。アッラーのお導きを信じて従う人は、アッラーの懲罰から安泰でいられるでしょう。

48 アッラーが私たちに啓示されたのは、この世とあの世での懲罰はアッラーの多くの印を否定し、使徒たちがもたらしたものを拒んだ人にあるということです。」

49 フィルアンは二人がもたらしたものを否定して言った。「ムーサーよ、お前たちが遣わされたと主張するお前たちの主とは一体誰だ？」

50 ムーサーは言った。「私たちの主とは、すべてのものに相応しい姿かたちを与え、生きとし生けるものをその存在の目的にそって導かれる御方。」

51 フィルアンは言った。「不信仰のまま過ぎ去った以前の民はどうなるというのだ。」

本諸節の功德:

- アッラーに語りかけられた者ムーサー(平安あれ)やほかの預言者や使徒たちへのアッラーの完全な庇護。彼らの相続者たちにも、各人のアッラーとのつながりに応じてこの特別な庇護が与えられる。
- 一般的な導きとして、被造物はすべて自分のためになるものを求め、害となるものを避けるようにつくられている。
- 勤善懲悪の美德。ただし、特にそれが権力や権勢を誇る者に対してのものである場合は柔和な話し方で行うこと。
- アッラーこそが過去、現在、未来の目に見えない事柄を特別に知る存在である。

قَالَ عَلَّمَهَا عِنْدَ رَبِّي فِي كِتَابٍ لَا يَبْضُلُ رَبِّي وَلَا يَنْسِي ٥٦ الَّذِي  
 جَعَلَ لَكُمْ الْأَرْضَ مَهْدًا وَسَلَكَ لَكُمْ فِيهَا سُبُلًا وَأَنْزَلَ مِنَ  
 السَّمَاءِ مَاءً فَأَخْرَجْنَا بِهِ أَزْوَاجًا مِّنْ نَّبَاتٍ شَتَّى ٥٧ كَلُوا  
 وَأَرْعَوْا وَنَعَّمْنَا فِي ذَلِكَ لَأُولِي الْأَلْبَابِ ٥٨ \* مِنْهَا  
 خَلَقْنَاكُمْ وَفِيهَا نُعِيدُكُمْ وَمِنْهَا نُخْرِجُكُمْ تَارَةً أُخْرَى ٥٩ وَلَقَدْ  
 آرَيْنَاهُ آيَاتِنَا كُلَّهَا فَكَذَّبَ وَإِنِّي ٦٠ قَالَ أَجِئْتَنَا بِسِحْرٍ  
 مِّنْ أَرْضِنَا بِسِحْرِكَ يَا مُوسَى ٦١ فَلَنَأْتِيَنَّكَ بِسِحْرٍ مِّثْلِهِ  
 فَأَجْعَلْ بَيْنَنَا وَبَيْنَكَ مَوْعِدًا لَا نُخْلِفُهُ نَحْنُ وَلَا أَنْتَ مَكَانًا  
 سُوًى ٦٢ قَالَ مَوْعِدُكُمْ يَوْمَ الزَّيْتَةِ وَإِن يَحْشُرَ النَّاسُ ضُحًى  
 ٦٣ فَتَوَلَّى فِرْعَوْنُ فَجَمَعَ كَيْدَهُ ثُمَّ أَتَى ٦٤ قَالَ لَهُمْ  
 مُوسَى وَيْلَكُمْ لَا تَفْتَرُوا عَلَيَّ اللَّهُ كَذَّابًا فَسِحْرِكُمْ بِعَدَابٍ  
 وَقَدْ خَابَ مَنِ افْتَرَى ٦٥ فَتَنَزَّعُوا أَمْرَهُم بَيْنَهُمْ وَأَسْرَوْا  
 اللَّجُوجِ ٦٦ قَالُوا إِن هَذَا لَسِحْرَانِ يُرِيدَانِ أَنْ يُخْرِجَاكُمْ  
 مِّنْ أَرْضِكُمْ بِسِحْرِهِمَا وَيَذْهَبَا بِطَرَفَيْكُمْ الْمَثَلِي ٦٧  
 فَاجْمَعُوا كَيْدَكُمْ فُتَاتُوا صَفًّا وَقَدْ أَفْلَحَ الْيَوْمَ مَنِ اسْتَعْلَى ٦٨

⑤⑥ ムーサー(平安あれ)はフィルアンに言った。「そうした以前の民がどうだったかについては私の主が知っておられます。守護された碑版にしかと記されており、私の主が間違えることや忘れることはありません。

⑤⑦ (その碑版は)あなたたちのために大地を住みやすくされた私の主の御許にあります。**かれ**こそその大地に歩きやすい道を用意され、天からは雨を降らし、その雨から様々な植物を茂らせた御方。」

⑤⑧ 人々よ、**われら**が茂らせたよいものを食べ、家畜を飼育せよ。本当にそうした恩恵の中には、アッラーの御力や唯一性を示す様々な証拠が理性ある者たちにとってはあるのである。

⑤⑨ 大地の土から**われら**はあなたたちの父アダム(平安あれ)を作り、あなたたちが死ねば**われら**がまたそこに戻し、清算の日には復活のためにまたそこからあなたたちを出すのである。

⑥① フィルアンには**われら**の九つの印を確かに明らかにしたが、彼はそれらを見ておきながら否定し、アッラーへの信仰に受け答えず拒絶したのである。

⑥② フィルアンは言った。「ムーサーよ、お前がやって来たのは、お前の魔術でわれらをエジプトから追い出し、エジプトの王国を自分のものにしようというのか。」

⑥③ ムーサーよ、我らはお前と同じような魔術を用意するから待ち合わせの時と場所を決めよ。我らもお前も遅れるではないぞ。場所は我らとお前たちの側の中間点とせよ。

⑥④ ムーサーはフィルアンに言った。「私たちの間の約束の日は、皆が暁の時間に祝うために集まる祭日としましょう。」

⑥⑤ そうしてフィルアンは背を向けてその場を立ち去り、念入りに策略を巡らせて、勝利すべく約束の時と場所にやって来た。

⑥⑥ ムーサーはフィルアンの魔術師たちに勧告して言った。「お気をつけください。人々を魔術で惑わすようにアッラーに対して嘘をでっち上げるようなことはなさないように。そんなことをすれば、あなたたちは**かれ**に罰せられてしまうでしょう。アッラーに対して嘘をつく人は滅びるしかないので。」

⑥⑦ 魔術師たちはムーサーの話聞いて意見し合い、ひそひそ話をし始めた。

⑥⑧ ある魔術師たちはお互いに小声で言った。「ムーサーとハールーンは魔術師だ。あやつらは君たちをエジプトから追い出し、君たちの権益や地位を奪おうとしているのだ。」

⑥⑨ だから皆で力を合わせ、自分勝手なことをしてはならない。選りすぐりの者を選出し、皆で一斉に術を繰り出せば、相手に打ち勝つという今日の目的を達成できるはずだ。」

### 本諸節の功德:

● 様々な種類や色の異なる植物が芽吹いているのは、至高のアッラーの御力を指し示し、創造者の存在を示す明らかな証拠である。

● 本諸節では、復活に関する理知的で明確な二つの証拠が挙げられている。植物が一度朽ち果てた後で大地に再び芽吹くこと。責任を負わされた被造物を大地から生じさせ、存在せしめること。

● フィルアンの不信仰は頑迷な不信仰である。証拠の数々を聞くだけではなくその目で見て、心の奥底では真実を認めていたからである。

● ムーサーが祭日を選んだのは、アッラーの御言葉が高められ、その教えが明らかにされ、不信仰を打ちのめすところが大衆の面前でなされることでその知らせが国中に広まるためである。

قَالُوا يَمْوَسِيٰ اِمَّا اَنْ تُلْقِيَّ وَ اِمَّا اَنْ تَكُوْنَ اَوَّلَ مَنْ اَلْقَى ۗ قَالَ بَلْ اَلْفَوْا فَاِذَا حُبَا لَهُمْ وَعَصِيٰهُمْ يَحِيْلُ اِلَيْهِ مِنْ سِحْرِهِمْ اَنَّهُمْ تَسْعَى ۗ فَاَوْجَسَ فِيْ نَفْسِهِ خِيْفَةٌ مُّوسَى ۗ فَلَمَّا لَانْتَحَفَ اِلَيْكَ اَنْتَ الْاَعْلَى ۗ وَاَلْقَى مَا فِيْ يَمِيْنِكَ تَلْقَفٌ مَا صَنَعُوْا اِنَّمَا صَنَعُوْا كَيْدَ سِحْرٍ وَلَا يُفْلِحُ السَّاحِرُ حَيْثُ اَتَى ۗ فَاَلْقَى السَّحْرَةَ سَجْدًا قَالُوْٓا اِمَّا رَبِّيْٓ هَرُوْنَ وَمُوسَى ۗ قَالَ ؕ اٰمَنْتُمْ لَهٗ وَقَبَلْ اَنْ ءَاذَنْ لَّكُمْ اِنَّهُ لَكَبِيْرُكُمُ الَّذِيْ عَلَّمَكُمُ السِّحْرَ فَلَا فَطْعَنَ اَيْدِيكُمْ وَاَرْجُلَكُمْ مِّنْ خَلْفٍ وَلَا صَلَبْتِكُمْ فِيْ جُدُوْعِ النَّخْلِ وَلَتَعْمُنَنَّ اَيُّنَا اَشَدُّ عَذَابًا وَّاَبْقَى ۗ قَالُوْا لَنْ نُؤْتِيَنَّكَ عَلٰى مَا جَاءَنَا مِنَ الْبَيِّنَاتِ وَالَّذِيْ فَطَرَنَا فَاقْضِ مَا اَنْتَ قَاضٍ ۗ اِنَّمَا تَقْضِيْ هٰذِهِ الْحَيٰوةَ الدُّنْيَا ۗ اِنَّ ءَاثِمًا رَبَّنَا لَيَغْفِرُ لَنَا خَطِيْئَتَنَا وَمَا اَكْرَهْتَنَا عَلَيْهِ مِنَ السِّحْرِ وَاللّٰهُ خَيْرٌ وَّاَبْقَى ۗ اِنَّهُ وَمَنْ يَّاتِ رَبَّهُ وَجْهًا مَّجْرُمًا فَاِنَّ لَهٗ وَجْهًا لَا يَمُوْتُ فِيْهَا وَلَا يَحْيٰى ۗ وَمَنْ يَّاتِهٖٓهُ مُؤْمِنًا قَدَّ عَمِلَ الصَّالِحٰتِ فَاُولٰٓئِكَ لَهُمُ الدَّرَجٰتُ الْعُلٰى ۗ جَنَّتٍ عَدْنٍ تَجْرٰى مِنْ تَحْتِهَا الْاَنْهٰرُ خٰلِدِيْنَ فِيْهَا وَاُولٰٓئِكَ جَزَاءُ مَنْ تَزَكٰى ۗ

65 魔術師たちがムーサー(平安あれ)に言った。「ムーサーよ、二つのうち一つを選ぶのだ。お前から魔術を始めるか、我々から始めるか。」

66 ムーサーは言った。「まずはあなたたちから始めてください。」そして彼らが手元にあったものを投げると、紐や杖がムーサーには彼らの魔術で素早く動く蛇に見えた。

67 ムーサーは彼らがしたことへの恐れを見せまいとした。

68 アッラーがムーサーを励ますように仰せられた。「あなたに見えたものを恐れるではない。ムーサーよ、あなたこそ彼らを打ち負かして上に立つ者である。

69 あなたの右手にある杖を投げよ。蛇となり魔術師たちがなしたものを一飲みにしてしまおうだろう。彼らがなしたのは見せかけの魔術に過ぎない。どこにおいても、魔術師が望むものを得ることはないのである。」

70 ムーサーが杖を投げると、蛇に変わって魔術師たちがなしたものを一飲みにした。魔術師たちはムーサーがするのはアッラーの御業であって魔術ではないことを知り、アッラーに向かって跪拝した。「ムーサーとハールーンの主、生きとし生けるものすべての主を信じます。」

71 フィルアンは魔術師たちの信仰を否定しつつ、脅しながら言った。「我が許可する前にお前たちはムーサーを信じたというのか! ムーサーこそがお前たち魔術師の頭領でお前たちに魔術を教えたのだらう。必ずやお前たち一人ひとりの手足を引きちぎり、他の者たちへの見せしめにナツメヤシの根元に磔にしてやろう。そこでお前たちは知るのだ。我とムーサーの主のどちらがより力強く、より生き永らえるかを。」

72 魔術師たちはフィルアンに言った。「フィルアンよ、私たちが目の当たりにした明らかな印よりもお前に従うのを優先することはない。私たちをお創りになったアッラーよりもお前を優先することはないのだ。好きにすればよい。お前が私たちをどうこうできるのは儚いこの世だけの話であり、お前の権力など消えてなくなるのだ。

73 私たちは主を信じる。願わくは過去の不信仰や罪を帳消しにしてくださり、お前が私たちに無理やり学ばせて専門とさせ、ムーサーに勝たせようとした魔術の罪を打ち消してくださいますように。アッラーこそがお前が約束した報奨よりも素晴らしい報奨を与えてくださり、お前が警告した懲罰よりも永続する恐ろしい懲罰を与えられるのだ。」

74 実に、主を信じないまま清算の日にやって来る者は、火獄に入れられて永遠にそこに住まうことになり、死んで懲罰から解放されることもなく、心地よい生を楽しむこともできないのである。

75 一方、主を信じて善行をなしつつ清算の日に主の御許へやって来る者は、彼らこそ立派な形容をされている者たちであり、彼らには高い地位と位階がある。

76 そうした位階こそ城の下を小川が流れる天国であり、永遠にそこに留まることができる。不信仰や罪から清められた者皆が得られる報奨なのである。

**本諸節の功德:**

- 魔術師が地上でなす行為、あるいは惑わそうとする行為で本当に得られることは何もなく、善悪何も達成することはできないのである。
- 信仰こそが奇跡を起こし得るのである。魔術師たちの信仰は山よりも不動のものであり、この世の罰を恐れることはなく、フィルアンの警告を気にすることもなかった。
- 度を越した不正者の常套手段は、真理の民への痛ましい虐待の脅しであり、侮辱と人権蹂躪に他ならない。

وَلَقَدْ أَوْحَيْنَا إِلَىٰ مُوسَىٰ أَنْ أَسْرِ بِعِبَادِي فَاصْرَبْ لَهُمْ طَرِيقًا  
 فِي الْبَحْرِ يَبَسًا لَا تَخَافُ دَرْكًا وَلَا تَحْشَىٰ ۗ ﴿٧٧﴾ فَاتَّبَعَهُمْ فَرَعَوْنُ  
 فَجَنَدُوهُ فَعَشِيَهُمْ مِّنَ الْيَمِّ مَا عَشِيَ لَهُمْ ۗ ﴿٧٨﴾ وَأَصْلَ فَرَعَوْنُ قَوْمَهُ  
 وَمَاهَدَىٰ ۗ ﴿٧٩﴾ يَبْنِي إِسْرَىٰ ۖ يَلِدُ فَذُنُوبَكُمْ مِّنْ عَدُوِّكُمْ وَوَعْدَكُمْ  
 جَانِبَ الطُّورِ الْأَيْمَنِ وَنَزَّلْنَا عَلَيْكُمُ الْمَنَّٰنَ وَالسَّلْوَىٰ ۗ ﴿٨٠﴾ كُلُّوْا مِنْ  
 طَيِّبَاتِ مَا رَزَقْنَاكُمْ وَلَا تَطْغَوْا فِيهِ فَيَحِلَّ عَلَيْكُمْ غَضَبِي  
 وَمَنْ يَحِلَّ عَلَيْهِ غَضَبِي فَقَدْ هَوَىٰ ۗ ﴿٨١﴾ وَإِلَىٰ لَعْفَارٍ لِّمَنْ تَابَ  
 وَعَٰمِنٌ وَعَمِلَ صَالِحًا ثُمَّ أَهْتَدَىٰ ۗ ﴿٨٢﴾ \* وَمَا أَعْمَلَكَ عَنْ  
 قَوْمِكَ بِمُوسَىٰ ۗ ﴿٨٣﴾ قَالَ هُمْ أَوْلَىٰ عَلَيَّ أَثَرِي وَعَجِلْتُ إِلَيْكَ  
 رَبِّ لِتَرْضَىٰ ۗ ﴿٨٤﴾ قَالَ فَإِنَّا قَدْ فَتَنَّا قَوْمَكَ مِنْ بَعْدِكَ وَأَضَلَّهُمُ  
 السَّامِرِيُّ ۗ ﴿٨٥﴾ فَرَجَعَ مُوسَىٰ إِلَىٰ قَوْمِهِ غَضْبَانَ أَسِفًا قَالَ  
 يَا قَوْمِ أَلَيْسَ لَكُمْ رُبُّكُمْ وَعَدَّ أَحْسَبًا أَفْطَالًا عَلَيْكُمْ الْعَهْدُ  
 أَمْ أَرَدْتُمْ أَنْ يَحِلَّ عَلَيْكُمْ غَضَبٌ مِّن رَّبِّكُمْ فَأَخْلَفْتُمُ  
 مَّوْعِدِي ۗ ﴿٨٦﴾ قَالُوا مَا أَخْلَفْنَا مَوْعِدَكَ بِمَلِكِنَا وَلَكِنَّا حَمَلْنَا  
 أَوْزَارًا مِّن زِينَةِ الْقَوْمِ فَقَدْنَا فَهَذَا كَذَلِكَ أَلْقَى السَّامِرِيُّ ۗ ﴿٨٧﴾

سورة طه  
الحجرات  
٣١٧

⑦⑦ われらはムーサーに啓示した。「誰にも気付かれないように夜の間にわが僕たちを引き連れてエジプトを出立せよ。杖で海を突き、海の中に乾いた道を作るのだ。フィルアンとその軍勢があなたたちに追いつくことはなく、海に溺れてしまうのを恐れることもない。

⑦⑧ フィルアンが軍勢を引き連れて追いかけたが、アッラーにしか真実のわからない溺れ方で彼もその軍勢も溺れてしまった。ムーサーとその一団は助かったが、他は皆滅び去ったのである。

⑦⑨ フィルアンはその民を不信仰がよいものであると思わせて惑わし、虚偽で彼らを騙して正しい道へと導こうとはしなかった。

⑧① イスラエルの民をフィルアンとその軍勢から救った後でわれらは言った。「あなたたちの敵から救ったのはわれらである。トゥール山側の谷の右側でムーサーに話しかけると約束したのもわれらである。われらの恩恵のうち、蜂蜜のように甘い飲み物を与え、ウズラに似た肉の美味しい小さな鳥を与えたのもわれらである。

⑧② 許された食べ物のうちわれらがあなたたちに与えた美味しいものを食べよ。われらがあなたたちに許したもののから禁じたものへと一線を越えてはならない。わが怒りが降りかかることになるからである。わが怒りに見舞われた者は、この世でもあの世でも不幸になり破滅してしまうのである。

⑧③ だがわれは悔い改めて信じ、善い行いをし、真理の道をまっすぐ歩む者に対し、よく赦す寛大な者である。

⑧④ ムーサーよ、あなたの民を置き去りにしてまであなたが急かすものは何か。」

⑧⑤ ムーサー(平安あれ)は言った。「彼らはすぐ私の後ろにいて追いつくでしょう。私が彼らよりも先に来たのは、急いで馳せ参じることであなたが喜んでくださるようになります。」

⑧⑥ アッラーは仰せられた。「われらはあなたが置き去りにしたあなたの民を牛への崇拜で試みた。サーミリーが彼らをいざない、彼らは迷いに陥ってしまった。

⑧⑦ そうしてムーサーは牛を崇拜するようになってしまったことを怒りながら民のもとへ戻り、悲しみながら言った。「わが民よ、律法書を下すことでアッラーはあなたたちに天国入りのよい約束をしてくださったのではないか。それとも待つのが長すぎて忘れてしまったというのか。それともそれをする中で主からのお怒りをもたらし、罰を受けたいのか。だから私が戻るまで信仰に忠実であれという私との約束を破ったのか。」

⑧⑧ ムーサーの民は言った。「ムーサーよ、我々があなたとの約束をわざと破ったことはない。どうしようもなかったのだ。フィルアンの民の装飾品を運んだが、それが重くて穴に投げ捨てた時、サーミリーもジブリールの馬の蹄についた砂塵を投げ捨てた。」

### 本諸節の功德:

- アッラーのこの世の摂理として、信者が喜び、胸のすくような思いができるよう罪悪人に復讐するということがある。
- 度を越す輩は己自身とその民にとって災いである。正しい道から惑わすだけで、善良さへも救済へも導けないからである。
- 恩恵は守護と増大を伴い感謝をもたらすものである。一方、恩恵を否定することはアッラーのお怒りを招くものである。
- アッラーは不信仰や罪から悔い改め、信じて善い行いをし、死ぬまで揺らぐことなくある者にとっては、常に赦し深い御方である。
- 先を急ぐことは一般的に好ましくないとされるが、宗教においてはむしろ褒められることである。

فَأَخْرَجَ لَهُمْ عَجَلًا جَسَدًا لَّهُ وَخَوَارِفًا لَّهُ هَذَا إِلَهُكُمْ  
 وَإِلَهُ مُوسَىٰ فَسَبَّي ۝٨٨ أَفَلَا يَرْوُونَ إِلَّا يَرْجِعُ إِلَيْهِمْ قَوْلًا  
 وَلَا يَمْلِكُ لَهُمْ ضَرًّا وَلَا نَفْعًا ۝٨٩ وَلَقَدْ قَالَ لَهُمْ هَدْرُونَ  
 مِنْ قَبْلِ يَقْوَمِ إِنَّمَا فُتِنْتُمْ بِهِ وَإِنَّ رَبَّكُمُ الرَّحْمَنُ فَاتَّبِعُونِي  
 وَأَطِيعُوا أَمْرِي ۝٩٠ قَالُوا لَنْ نَبْرَحَ عَلَيْهِ عَاكِفِينَ حَتَّىٰ يَرْجِعَ  
 إِلَيْنَا مُوسَىٰ ۝٩١ قَالَ يَهْرُونَ مَا مَنَعَكَ إِذْ رَأَيْتَهُمْ ضَلُّوا ۝٩٢  
 أَأَلَّا تَتَّبِعَنِ أَفَعَصَيْتَ أَمْرِي ۝٩٣ قَالَ يَبْنَؤُهُمْ لَا تَأْخُذُ بِلِحْيَتِي  
 وَلَا يَرَأْسِي إِنِّي خَشِيتُ أَنْ تَقُولَ فَرَّقْتَ بَيْنَ بَنِي إِسْرَائِيلَ  
 وَلَمْ تَرْقُبْ قَوْلِي ۝٩٤ قَالَ فَمَا خَطْبُكَ يَا سَمِرِيُّ ۝٩٥ قَالَ  
 بَصُرْتُ بِمَا لَمْ يَبْصُرُوا بِهِ فَقَبَضْتُ قَبْضَةً مِّنْ أَثَرِ  
 الرَّسُولِ فَنَبَذْتُهَا وَكَذَلِكَ سَوَّيْتُ لِي نَفْسِي ۝٩٦ قَالَ  
 فَأَذْهَبْ فَإِنَّ لَكَ فِي الْحَيَاةِ أَنْ تَقُولَ لَا مِسَاسَ وَإِنَّ لَكَ  
 مَوْعِدًا لَّنْ يُخَفَّفَهُ ۝٩٧ وَانظُرْ إِلَى إِلَهِكَ الَّذِي ظَلْتَ عَلَيْهِ  
 عَاكِفًا لَنُحَرِّقَنَّهُ ثُمَّ لَنَنْسِفَنَّهُ فِي الْيَمِّ نَسْفًا ۝٩٨ إِنَّمَا  
 إِلَهُكُمُ اللَّهُ الَّذِي لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ وَسِعَ كُلَّ شَيْءٍ عِلْمًا ۝٩٨

98 サーミリーがイスラエルの民にあの装飾品から魂のない牛の体を作った。鳴き声は牛の鳴き声のようである。サーミリーの行いに惑わされた者たちは言った。「これがあなたたちの崇めるべき存在であり、ムーサーの崇める御方。彼はそれを忘れてここに置いて行ったのだ。」

99 牛の像に惑わされて崇めるようになった者たちは、その牛が応答することもなければ、彼らのためにも他の誰のためにも害を取り除くこともなく、利益をもたらすこともないのかわからないのか。

100 ハールーンはムーサーが帰る前に言ったのである。「牛の像を金びかにして飾り立てるのは、信者と不信仰者を見分ける試練に他なりません。わが民よ、あなたたちの主は、お慈悲ある御方であり、利害をもたらすこともなければ慈悲を持つこともない存在ではありません。かれだけを崇めることにおいて、私に従ってください。他のものを崇めるのは止めるよう私の命に従ってください。」

101 牛の像を崇めるのに惑わされた者たちは言った。「ムーサーが戻るまで私たちはやめないぞ。」

102 ムーサーは兄弟のハールーンに言った。「彼らが迷ってアッラー以外に牛を崇めるようになったのをなぜ止められなかったのですか？」

103 彼らを見過ごしておきながら私に従うのですか？私の留守の代理としてお願いしたのに背いたのですか？

104 ムーサーが兄弟の髭と髪の毛を掴んで非難すると、ハールーンは感情に訴えて言った。「髭と髪の毛を引っ張らないでくれ。私が彼らと共にいたのには理由がある。彼らのもとを離れたら、分裂してしまうのではないかと心配したのだ。そうしたらお前は私に、分裂させた、命令を守らなかったと非難しただろう。」

105 ムーサーがサーミリーに言った。「お前は一体何なのだ、サーミリー。お前がしでかしたことの動機は何なのだ？」

106 サーミリーがムーサーに言った。「私には彼らが見えないものが見えたのだ。ジブリールが馬に乗って現れたのを見て、私はその馬の足元にあった土を掴み、装飾品を混ぜて牛の像をかたどった。すると立派な牛の像が出来上がり、わが心もよいものができたと満足したわけだ。」

107 ムーサーはサーミリーに言った。「もう行くがよい。生きている間ずっと『一切かかわらないでくれ』と言うことになるだろう。清算の日にお前が懲罰を受ける約束が待っている。アッラーはこの約束を違えたりはしない。お前がアッラー以外に崇拝の対象としてそれを広めた牛を見てみよ。われらは必ずそれを燃やして溶かしてしまい、跡形もなく海に沈めてしまうだろう。」

108 「人々よ、あなたたちにとって本当に崇めるべき存在は、ほかには崇めるべきものなど何一つないアッラーなのです。かれはすべてを知り覆い尽くし、知らないことなど何一つありません。」

### 本諸節の功德:

- 真理をすり替えることで人々を騙すのは、迷妄の民の常套手段である。
- よい怒りとは、アッラーの禁忌が犯される際に生じるものである。
- 本諸節には、逸脱や罪の徒を否定し、遠ざけて人と交わらないようにすべき基本がある。
- 本諸節には、世界での行いを通して至高のアッラーを認識すべきという熟考への示唆がある。

كَذَلِكَ نَقُصُّ عَلَيْكَ مِنْ أَنْبَاءِ مَا قَدْ سَبَقَ وَقَدْ آتَيْنَاكَ مِنْ لَدُنَّا  
ذِكْرًا ۝٩٩ مَن أَعْرَضَ عَنْهُ فَإِنَّهُ يَحْمِلُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ وِزْرًا  
۝١٠٠ خَالِدِينَ فِيهِ وَسَاءَ لَهُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ حِمْلًا ۝١٠١ يَوْمَ يُفْعَلُ  
فِي الصُّورِ وَتَحْشُرُ الْمُجْرِمِينَ يَوْمَئِذٍ زُرْقًا ۝١٠٢ يَتَخَفَتُونَ  
بَيْنَهُمْ إِنْ لَبِثْتُمْ إِلَّا عَشْرًا ۝١٠٣ نَحْنُ أَعْلَمُ بِمَا يَقُولُونَ إِذْ يَقُولُ  
أَمْثَلُهُمْ طَرِيقَةً إِنْ لَبِثْتُمْ إِلَّا أَيَّامًا مَّعْدُودَةً ۝١٠٤ وَيَسْتَلُونَكَ عَنِ الْجِبَالِ  
فَقُلْ يَنْسِفُهَا رَبِّي نَسْفًا ۝١٠٥ فَيَذَرُهَا قَاعًا صَفْصَفًا ۝١٠٦  
لَا تَبْقَى فِيهَا جَبَلٌ وَلَا أُمَّةٌ ۝١٠٧ يَوْمَئِذٍ يَتَّبِعُونَ الدَّاعِيَ  
لَا عِوَجَ لَهُ وَخَشَعَتِ الْأَصْوَاتُ لِلرَّحْمَنِ فَلَا تَسْمَعُ إِلَّا هَمْسًا  
۝١٠٨ يَوْمَئِذٍ لَا تَنْفَعُ الشَّفَاعَةُ إِلَّا مَنْ أَذِنَ لَهُ الرَّحْمَنُ وَرَضِيَ لَهُ  
قَوْلًا ۝١٠٩ يَعْلَمُ مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَلَا يُحِيطُونَ بِهِ  
عَلَّمَا ۝١١٠ وَعَنْتِ الْأَوْجُوهُ لِلْحَيِّ الْقَيُّومِ وَقَدْ خَابَ مَنْ حَمَلَ  
ظُلْمًا ۝١١١ وَمَنْ يَعْمَلْ مِنَ الصَّالِحَاتِ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَلَا يَخَافُ  
ظُلْمًا وَلَا هَضْمًا ۝١١٢ وَكَذَلِكَ أَنْزَلْنَاهُ قُرْآنًا عَرَبِيًّا وَصَرَّفْنَا  
فِيهِ مِنَ الْوَعِيدِ لَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ أَوْ يُحَدِّثُ لَهُمْ ذِكْرًا ۝١١٣

①使徒よ、われらがあなたにムーサーとフィルアンや両者の民について物語ったように、あなたが前向きになれるようあなた以前の預言者や共同体について語ろう。われらはあなたに訓戒を受け入れる者への訓戒としてクルアーンを与えたのである。

②あなたに下されたこのクルアーンに背を向けて信じようとせず、そこにある教えを実践しようとしないうちは、清算の日には大きな罪を背負って、痛ましい懲罰に相応しい者としてやって来るだろう。

③そうした懲罰の中で永遠に苛まれることとなる。清算の日には彼らが背負うものなんとおぞましいことよ。

④復活の到来を告げるラッパを天使が吹く日、あの世の恐ろしい光景を見て顔色を変え、青ざめた様子でわれらが不信仰者をこぞって集めるその日、

⑤彼らは互いに嘔き合う。「死後、墓の世界(バルザフ)で10日しかいなかったぞ。」

⑥われらは彼らがひそひそと話をしているのをわかっている。われらにわからないことは何一つない。中でもいちばん頭の良い者が言った。「あなたがそこにいたのは一日だけでそれ以上ではない。」

⑦使徒よ、清算の日の山について彼らは尋ねるだろう。言ってやりなさい。「山々をわが主が根こそぎ引き抜いてしまい、粉々に砕いてしまわれるでしょう。」

⑧そしてかつて支えられていた大地を離れ、そこは建物も植物も何もない平らな地となるでしょう。

⑨観察者よ、大地は完全に平らな状態となり、何の盛り上がりもくぼみも見ないだろう。

⑩その日人々は(復活の)集合同所へといざなう者の声に従い、それに従うのを遮る者はいない。声という声が慈悲深い御方を恐れて沈黙し、その日はひそひそとした声のほか聴くことはない。

⑪そのとてつもない日には、アッラーが執り成しを許してください、執り成しの発言を嘉してください、仲介者のほかはどんな仲介者の執り成しも役に立たない。

⑫完全無欠なアッラーは人々を待ち受けるその時のことを知っておられ、生前彼らが行ったことも知っておられるが、僕は誰もアッラーの本質とご性質を把握しきることはできない。

⑬僕たちの顔は謙遜し、決して死ぬことのない永生なる御方へ厳かに向けられる。かれこそはその僕たちの万事を自在に司る御方である。自分自身を破滅の場所へと向かわせる罪を背負う者は、確かに損失をこうむったのである。

⑭一方、アッラーとその使徒たちを信じて善行をなす人は、豊かな報奨を得るだろう。したことの無い罪で罰を受けるという不義を恐れることもなく、善行への報奨が減ることもないのである。

⑮過去の者たちの物語をわれらが下したように、このクルアーンを明瞭なアラビア語で下した。彼らがアッラーを恐れるのを願い、あるいはクルアーンが啓発と教訓となるように、注意喚起や脅しなど様々な警告をその中で明らかにした。

本諸節の功德:

- 偉大なクルアーンはそのすべてが社会、民族、個人にとっての訓戒であり、人類全体にとっての名誉と誇りである。
- アッラーが執り成しを許してください、執り成しの発言を嘉してください、仲介者のほかは、どんな仲介者の執り成しも役に立たない。
- クルアーンは知性と天性がその素晴らしさと完璧さを認識する最良の規定を内包している。
- クルアーンと接する上での礼節として、受け入れと服従、尊重が大切であり、まっすぐな道へとその光によって導かれること、率先してクルアーンを学び、教えることが大切である。
- 清算の日には、違反者たちは後悔することになる。それは無駄な時間を数多く過ごし、不注意かつ戯れて台無しにし、役に立つことからは遠ざかり、害になることへは率先してかわろうとしたからである。

فَتَعَلَىٰ اللَّهُ الْمَلِكُ الْحَقُّ وَلَا تَعْجَلْ بِالْقُرْآنِ مِنْ قَبْلِ أَنْ يُقْضَىٰ إِلَيْكَ وَحْيُهُ وَقُل رَّبِّ زِدْنِي عِلْمًا ﴿١١٥﴾ وَلَقَدْ عَاهَدْنَا إِلَىٰ آدَمَ مِنْ قَبْلِ فَنَسَىٰ وَلَمْ يُجِدْ لَهُ عَزْمًا ﴿١١٦﴾ وَإِذْ قُلْنَا لِلْمَلَائِكَةِ اسْجُدُوا لِآدَمَ فَسَجَدُوا إِلَّا إِبْلِيسَ أَبَى ﴿١١٧﴾ فَقُلْنَا يَا آدَمُ إِنَّ هَذَا عَدُوٌّ لَكَ وَلِزَوْجِكَ فَلَا تَخْرُجَنَّكَمَا مِنَ الْجَنَّةِ فَتَشْقَى ﴿١١٧﴾ إِنَّ لَكَ الْأَجْوَاعَ فِيهَا وَلَا تَعْرَى ﴿١١٨﴾ وَأَنَّكَ لَا تَظْمَأُ فِيهَا وَلَا تَصْحَى ﴿١١٩﴾ فَوَسَّوَسَ إِلَيْهِ الشَّيْطَانُ قَالَ يَا آدَمُ هَلْ أَدُلُّكَ عَلَىٰ شَجَرَةِ الْخُلْدِ وَمُلْكٍ لَآبِيْنٍ ﴿١٢٠﴾ فَأَكَلَا مِنْهَا فَبَدَتَ لَهُمَا سَوْءُ ثُهُمَا وَطَفِقَا يَخْصِفَانِ عَلَيْهِمَا مِنْ وَرَقِ الْجَنَّةِ وَعَصَىٰ آدَمُ رَبَّهُ فَغَوَىٰ ﴿١٢١﴾ ثُمَّ أَجْنَبَهُ رَبُّهُ وَقَتَابَ عَلَيْهِ وَهَدَىٰ ﴿١٢٢﴾ قَالَ أَهِيْطَا مِنْهَا جَمِيْعًا بَعْضُكُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ فَأَيُّ آيَاتِنَا تُكْمِرُ مَنِيْ هُدَىٰ فَمَنْ أَتَّبَعْ هُدَىٰ فَلَا يَضِلُّ وَلَا يَشْقَى ﴿١٢٣﴾ وَمَنْ أَعْرَضَ عَن ذِكْرِي فَإِنَّ لَهُ مَعِيشَةً ضَنْكًا وَنَحْشُرُهُ يَوْمَ الْقِيَمَةِ أَعْمَىٰ ﴿١٢٤﴾ قَالَ رَبِّ لِمَ حَشَرْتَنِيْ أَعْمَىٰ وَقَدْ كُنْتُ بَصِيْرًا ﴿١٢٥﴾

114 アッラーはいと高く格別に清浄で荘嚴なる御方。すべてのものの所有権を持つ王にして、真理なる御方であり、その御言葉も真理である御方。多神教徒が形容するものからは無縁なる御方。使徒よ、ジブリアルがあなたに伝える前にクルアーンの説諭を急いではならない。むしろ言いなさい。「主よ、**あなた**が私にお望みのようによく学べるよう私の知識を富ませてください。」

アッラーがフィルアンの反抗とイスラエルの民の不注意を含めムーサーの物語を述べられると、忘れてしまった人がアッラーへの忠義に戻れるような励ましとしてアダム(平安あれ)の物語を述べるべく仰せられた。

115 **われら**はアダムに以前ある特定の木から食べるなど言付け、それを禁じた。**われら**はその禁を破ればどうなるかを明らかにしたが、彼はその言付けを忘れてしまい、辛抱できず木の実を食べた。**われら**が言付けたことを守る決意の強さが見られなかったのである。

116 使徒よ、思い起こすがよい。**われら**が天使たちに「アダムに挨拶の跪拝をせよ」と言ったときのことを。天使たちは皆跪拝したが、イブリースだけは違った。そもそも彼は一緒にいたが同類ではなく、傲慢なために跪拝を拒否したのである。

117 **われら**は言った。「アダムよ、イブリースはあなたとあなたの妻の敵である。だからあなたとあなたの妻が彼の囁きに従って天国から出され、辛くて嫌な思いをしなくてよいようにせよ。」

118 天国ではアッラーに食べさせてもらうことができるからお腹を空かせることもなく、衣服を着せてもらえるから裸にならずともよいのである。

119 そして**かれ**が飲ませてくださるから喉が渇くこともなく、木陰を与えてくださるから太陽の日差しに暑い思いをしなくともよい。

120 ところが悪魔がアダムに囁いて言った。「その実を食べれば決して死ぬことはなく、永遠に生きることができ、途切れることも終わることもない永遠の王国を手に入れられるようになる木へと案内してやろうか。」

121 アダムとハウワーウは食べてはいけない木から食べたので二人には恥部が秘められていたのが明らかになり、天国の木の葉を取って二人の恥部を覆った。こうしてアダムは木の実を食べないようにという主のご命令に背き、許可されていない一線を越えてしまったのである。

122 それからアッラーは彼を選良とされ、その悔悟を受け入れられ、正しい道への成功を与えられた。

123 アッラーはアダムとハウワーウに仰せられた。「あなたたち二人は天国から下るがよい。イブリースはあなたたちの敵であり、あなたたち二人も彼にとっての敵である。だからもしあなたたちのもとにわが道を明らかにするものが来たならば、すなわちあなたたちのうちわが道を説くものに従い、それを実践して逸れなかった者は、真理から逸脱することもあの世で懲罰に苦しむこともなく、アッラーに天国へ入れてもらえるだろう。」

124 一方、わが訓戒に背き、拒んで応答しなかった者は、この世でも墓の世界でも狭苦しい生活を与えられ、清算の日には視覚も弁明も失った状態で復活の地へ連れて行かれるだろう。

125 訓戒に背いた当人は言う。「主よ、この世では目が見えていたのに、なぜ今日目の見えない状態で復活させたのですか?」

**本諸節の功德:**

- 知識習得には礼節が肝要である。知識を得ようと話を聴く者は、教師が一連の話を終えるまで辛抱して待つこと。
- アダムが忘れたため、その子孫も忘れる。彼が固い決意に揺らがずにいられたため、彼ら子孫も同様である。彼はすぐに悔い改め、アッラーに赦された。よってアダムのようにある者(つまり、すぐ悔悟する者)は、不当な目には合わない。
- 悔悟の美德。アダム(平安あれ)が悔悟の後それ以前よりよくなったためである。
- 不信仰と迷妄の民には、この世でも墓の世界でも、あの世でも低劣な暮らしが待ち受けている。

قَالَ كَذَلِكَ أَتَتْكَ آيَاتُنَا فَنَسِيَتْهَا كَمَا نَسِيَ الْيَوْمَ نَسِيًّا ١٢٦  
 وَكَذَلِكَ نَجْزِي مَنْ أَسْرَفَ وَلَمْ يُؤْمِنْ بِآيَاتِ رَبِّهِ وَعَلَذَابُ الْآخِرَةِ  
 أَشَدُّ وَأَقْبَى ١٢٧ أَفَلَمْ يَهْدِ لَهُمْ كَمَا أَهْلَكْنَا قَبْلَهُمْ مِنَ الْقُرُونِ  
 يَمْشُونَ فِي مَسْجِدِهِمْ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّأُولِي النُّهَى ١٢٨  
 وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِنْ رَبِّكَ لَكَانَ لِزِمَامِ وَاجِلٍ مُّسَمًّى ١٢٩  
 فَاصْبِرْ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ قَبْلَ طُلُوعِ الشَّمْسِ  
 وَقَبْلَ غُرُوبِهَا وَمِنْ آنَاءِ الْيَلِّ فَسَبِّحْ وَطَرَفَ النَّهَارِ رِعْلَكَ  
 رِضًى ١٣٠ وَلَا تَمُدَّنَّ عَيْنَيْكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعْنَا بِهِ أَزْوَاجًا مِنْهُمْ زَهْرَةَ  
 الْحَيَاةِ الدُّنْيَا لِنَفِثَ فِيهِمْ فَوَيْلٌ لِّرَبِّكَ خَيْرٌ وَأَقْبَى ١٣١ وَأْمُرْ أَهْلَكَ  
 بِالصَّلَاةِ وَاصْطَبِرْ عَلَيْهَا لَا تَسْأَلْكَ رِزْقًا نَحْنُ نَرْزُقُكَ وَالْعَاقِبَةُ  
 لِلتَّقْوَى ١٣٢ وَقَالُوا لَوْلَا يَا تَبِيتَا بِآيَاتِهِ مِنْ رَبِّهِ ۗ أَوَلَمْ تَأْتِهِم  
 بَيِّنَةٌ مَا فِي الصُّحُفِ الْأُولَىٰ ١٣٣ وَلَوْ أَنَّا أَهْلَكْنَا هُمْ بَعْدَآبِ  
 مِنْ قَبْلِهِ لَقَالُوا رَبَّنَا لَوْلَا أَرْسَلْتَ إِلَيْنَا رَسُولًا فَنَتَّبِعَ  
 آيَاتِكَ مِنْ قَبْلِ أَنْ نَذِلَّ وَنَخْزَىٰ ١٣٤ قُلْ كُلُّ مُرْتَبِّصٍ فَتَرَىٰ صَوًّا  
 فَسَتَعْلَمُونَ مَنْ أَصْحَابُ الصِّرَاطِ السَّوِيِّ وَمَنِ اهْتَدَىٰ ١٣٥

⑫⑥ 至高のアッラーは彼に依て仰せられた。「前世でもあなたはそうであった。あなたのもとにはいくつものわれらの印がやって来たにもかかわらず、あなたはそれに背き去ったのだ。それと同じように今日あなたは懲罰の中に捨て置かれるのである。

⑫⑦ この報いと同じように禁じられた欲求解消におぼれ、主からもたらされた明確な証拠の数々による信仰に背を向けた者に報いるだろう。あの世でのアッラーの懲罰のほうがこの世や墓の世界での低劣な暮らしよりもおぞましく強烈で永続的なのである。

⑫⑧ 多神教徒たちには彼ら以前にわれらが滅ぼした多くの共同体がわからないのか。滅ぼされた社会が暮らしていた町の上を歩きながら、彼らを襲った災害の後を見ておきながらである。本当にそうした多くの社会を襲い、破壊と壊滅へと至らしめたことは理性ある者への教訓である。

⑫⑨ 使徒よ、立証前には誰も罰することはないというあなたの主の御言葉がなかったなら、前もって定められた猶予がなかったなら、彼らに相応しい懲罰が即座に降りかかっていただろう。

⑫⑩ だから使徒よ、あなたを否定する者たちが言うでたらめな言葉には辛抱せよ。そして日の出前の早朝(ファジュル)の礼拝、日没前の遅い午後(アスル)の礼拝、夜の時間帯の日没後(マグリブ)と夜(イシャウ)の礼拝に、午前の終わりの正午過ぎ(ズフル)の礼拝に、あなたの主の栄光を讃えよ。アッラーの御許よりあなたが満足する報奨を得られるように。

⑫⑪ われらが訓練のためにこの世の栄華を楽しませている否定者たちの様々な恩恵を見てはならない。われらが彼らに与えたものは消え失せるからである。あなたが満足するまで与えてくださると約束してくださった

ター・ハー章 321 部 16  
 あなたの主からの報奨のほうが、彼らがこの世で享受されている消え行く享楽よりも良く、終わることなく長続きするのである。

⑫⑫ 使徒よ、あなたの家族に礼拝を命じよ。実践できるようなあなたはよく辛抱せよ。あなたのためにもあなた以外の者のためにも、われらが糧を求めることはない。むしろわれらがあなたの糧を請け負うのである。アッラーを恐れ、そのご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識する者たちにこそ、この世でもあの世でも誉れある結末はある。

⑫⑬ 預言者(祝福と平安あれ)を否定する者たちは言った。「ムハンマドは自分の正しさを証明する主からの印をなぜもって来ないのか。」彼ら否定者のもとに、彼以前の天啓の書を確証するクルアーンが来ることはなかったか。

⑫⑭ 万が一預言者を否定するこれらの者たちをその不信仰と頑固さで彼らに使徒を遣わす前、啓典を下す前に懲罰として滅ぼしたとしても、清算の日には自分たちの不信仰を言い訳がましく言うだろう。「我らが主よ、この世で我々のもとに使徒を遣わしてくれたなら、我々は彼を信じ、あなたの罰を受けて屈辱と恐怖に襲われる前に彼がもたらした印に従ったでしょうに。」

⑫⑮ 使徒よ、これらの否定者たちに言いなさい。「私たち一人一人がアッラーの行われるのを待っています。だからあなたたちも待ってください。必ずや誰がまっすぐな道を歩む人たちで、私たちかあなたたちか、誰が正しく導かれた人たちかをやがて知るでしょう。」

**本諸節の功德:**

- アッラーの栄光を讃美しつつ徳のある特別な時間を有効利用することは、反対者の嫌がらせに耐える一助となる。
- 僕たる信者にとっては、この世の栄華やそれを望む野心を心の中に見出した場合、そうした消え行く栄華と永遠のあの世の恩恵とを比べるべきである。
- 僕たる信者にとっては、礼拝を正しく確立することが肝要である。使徒(祝福と平安あれ)に倣い、困難に出くわしたときは礼拝をし、家族にも礼拝をするよう辛抱強く命じること。
- 神を意識する民のためにこそ、天国という誉れある美しい結末はある。